

# 淡海生涯カレッジ20年の歩み

2016年2月

滋賀県教育委員会

淡海生涯カレッジ各校実行委員会

## はじめに

近年、我々の社会は、情報化、高齢化、国際化、高度科学技術化などが進むことによって大きな変貌を遂げており、この社会で生きる人々には、変化した社会に対応し、主体的に関わっていくことが必要とされています。このような社会の要求に応えるためには、社会で生きる人々が幅広い分野について継続的に学習し、自己を磨くことが必須となります。事実、社会における学習ニーズは高まってきており、このニーズに対応するための体系的な学習機会を開発し提供することも重要な課題として提起されるようになりました。そこで、滋賀県では、情報、産業、科学技術、文化などの様々な分野において高いレベルの知識や技術の習得が出来る機会の提供を目指して、平成7年度に「淡海生涯カレッジ」の開発に着手しました。そして1年の開発期間を経て、平成8年度に「淡海生涯カレッジ琵琶湖学習コース」が滋賀県大津市に開設されました。この淡海生涯カレッジは、平成9年度から、県内各地で新たに開校されるようになり、平成27年度現在、5校のカレッジ（大津校、草津校、甲賀校、彦根校、長浜校）が設置され、様々な分野における体系的な学習機会を皆様に提供しています。

淡海生涯カレッジは、各校ごとに取り上げているテーマが異なるというのが特徴です。例えば、平成27年度においては、大津校では環境を、草津校では環境文化の創造を、甲賀校では郷土の知恵と技を、彦根校では歴史、文化、健康を、そして長浜校ではバイオテクノロジーを中心としたテーマでそれぞれ学習の機会を提供しております。この様に取り上げているテーマは各校で異なりますが、その体系化された教育システムは共通であり、問題発見講座で実際に問題を見て、感じて、学んだ後、高等学校などでの実験・実習講座で実際に実験や体験を行うことでより問題を具体化し、そしてこの問題点の理論を大学等で開催される理論学習講座で学ぶというシステムになっております。さらに、淡海生涯カレッジの修了後には社会活動への参加を応援するシステムが存在しており、学んだことを社会で生かしたいという受講生の願いにも対応しております。この様に、地域の特性を生かした継続的で段階的な生涯学習講座は全国でも珍しく、高く評価されています。淡海生涯カレッジが20年ものあいだ続けてこられ、大きく発展してきたことは、淡海生涯カレッジ開校と運営にお力をお貸しいただいた皆様と、なにより本講座を愛していただいた受講生のおかげであります。

淡海生涯カレッジは、今後、社会の変貌に対応して、その姿を柔軟に変化させる必要があるでしょう。しかし、淡海生涯カレッジが今度どのような変化を遂げようとも、この20年間で培った淡海生涯カレッジの財産は必ず活用されると信じております。淡海生涯カレッジの20年の歩みをまとめた本冊子が、今後の淡海生涯カレッジの発展と、様々な分野を継続して学ぼうという皆様の高い意欲を具現化することの一助になれば幸いと存じます。

平成28年2月

淡海生涯カレッジ専門委員会議座長  
長浜バイオ大学 蔡 晃植

# 淡海生涯カレッジの20年を振り返って

## ーカレッジのはじまりとこれからー

神 部 純 一

(滋賀大学社会連携研究センター長)

### 1. 淡海生涯カレッジのはじまり

「淡海生涯カレッジ」は、平成6年から3年間にわたって行われた文部省（現・文部科学省）による「地域における生涯大学システムの研究開発」をきっかけに、滋賀大学生涯学習教育研究センター（現・滋賀大学社会連携研究センター）と滋賀県の共同研究の中から生まれた学習機会である。

「生涯大学システム」とは、「広域的なサービス網」を構築するための仕組みであり、「各都道府県（生涯学習推進センター等）を中心に、県域内の各市町村、社会教育施設や大学・高等学校等、民間教育事業者等との幅広い連携・協力により構築される、総合的な学習サービス提供システム」である。このシステムの構築のため、文部省は、（1）学習機会提供機関相互の連携・協力の在り方について、（2）学習成果を生かした社会参加活動に対する支援の在り方について、（3）現代的課題に関する学習活動の充実方策について、（4）その他必要な事項、についての調査、研究開発を行うこととし、平成6年10月に12県（青森県、宮城県、秋田県、群馬県、神奈川県、新潟県、石川県、岐阜県、兵庫県、島根県、広島県、福岡県）に調査研究を委嘱したのである。

平成6年といえば、滋賀大学に生涯学習教育研究センター（現・滋賀大学社会連携研究センター）が設置された年であり、大学の研究センターとしてやるべきことは何か、地域社会に対してどういう貢献ができるのか等、まだまだ研究も事業の中身も具体的に見えていない時期であった。そういう時に、この委嘱プロジェクトが始まったのである。

このプロジェクト内容を見た時、私も、センターのスタッフも「これは大学の知的資源を生かした地域貢献の一つのモデルとなるのでは」と感じ、すぐに大学から滋賀県教育委員会へプロジェクトに手をあげるよう働きかけることにした。その結果、センターが中心となって研究計画を立て、大学と教育委員会が協働で事業を実施するという一方で、上記プロジェクトの2年目に文部省より委嘱を受けることになったのである。

### 2. 淡海生涯カレッジ開校までの経緯

淡海生涯カレッジの開発においてまず問題となったのは、何をテーマに大学システムを創るかである。これについては、滋賀県の地域特性を生かしたもの、すなわち琵琶湖を中心とする環境問題に焦点をあてることにした。

続いて、このテーマに関して環境学習機会提供者を対象に調査を行ったところ、環境学習の機会の大半は、環境問題への意識の啓発を主目的とした、1回

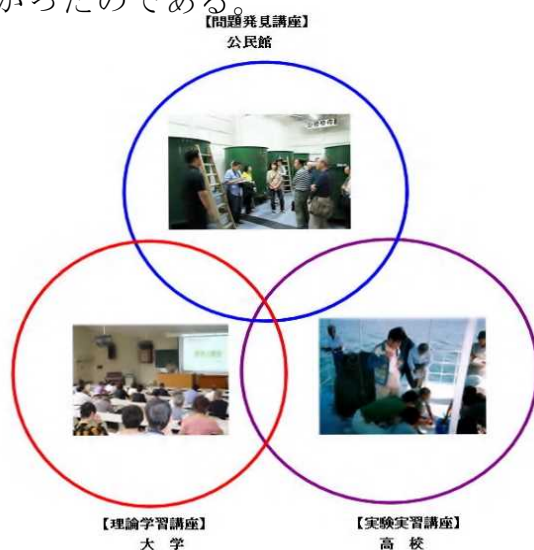
限り、1日コース、平日昼間の講義、見学、講演会等であった。また、環境学習機会提供者は、放送メディアや体験活動を含む多様な方法での学習機会を、大学、企業や専門研究機関と連携して実施する必要性を感じていることも明らかとなった。

こうした調査結果を得て、生涯大学システムの方向性は決まった。「継続的、体系的に学べる環境学習機会」の創出である。カレッジの研究開発チームは、そのシステムの実現に向けて試行錯誤を繰り返し、最終的に、今の淡海生涯カレッジのシステムにたどり着くことになる。

カレッジのシステムの特徴としては、大きく2点があげられる。一つは、学習者があるテーマを深く学ぶことができる、体系的なシステムであること、そしてもう一つは、地域の多様な機関間のネットワークを重視したシステムであること、である。

近年、市民の学習ニーズは高度化・専門化している。こうしたニーズに応える学習機会には体系性が求められる。カレッジでは、特色のある3つの講座を開設し、受講生がそれぞれの講座内容を学ぶことで学習を深めていけるようにした。その3つの講座とは、身近な環境問題を学ぶ中で、環境についての問題意識を高めることを目的とする「①問題発見講座」、実験や実習を通して、体験的に環境問題に迫る「②実験・実習講座」、そして理論的に環境問題を深める「③理論学習講座」である。環境問題に対する「意識」を高め、実際に「経験」することで問題を明確にし、その上で、最後に「理論」を学ぶことで、環境問題に対する理解を深めていこうというわけである。

しかし、この3つのバラエティにとんだ講座を一つの機関のみで企画・実施することはかなり難しい。そこで研究開発チームは、地域の学習機関にそれぞれの得意分野を生かした講座を開設してもらい、それを結びつけることでこの問題を解決しようと考えた。こうして、公民館が「問題発見講座」を、高校と生涯学習センターが「実験・実習講座」を、そして大学が「理論学習講座」を担当し、全体として体系的で、実りある学習機会を提供する淡海生涯カレッジのシステムができあがったのである。



その後津市をモデル地域に、生涯学習教育研究センターと教育委員会は、慌ただしく事業実施に向けての準備段階に入った。しかし、これが順調に進んだかというとは決してそうではなかったのである。学習機関として選定された公

民館、高校、市の生涯学習センター、そして大学が、初めてカレッジの運営委員会で顔を合わせた時のことである。実施機関の関係者からは、「公民館は、地域の住民に学習の場を提供するのが基本であるから、地域外の住民のための学習の場を確保することはできない」また「半年にもわたるこうした学習機会にそうそう受講者が集まるとは思えない」等、カレッジの実施に対して否定的な意見が相次いだ。事務局サイドと実施機関との間での激しいやりとりは何時間も続き、とりあえずやるという結論には達したが、全員が納得したわけではなく、多くの不安や不満を抱えながらの船出だったのである。

大学内部にもカレッジの実施に向けて大きな壁が立ちふさがっていた。カレッジには「土曜コース」と「平日コース」の2コースがあり、「理論学習講座」を担当する滋賀大学では、「土曜の特設講座」か、科目等履修生制度を利用して平日の「正規の授業」を受講させることで、2つのコースに対応しようと考えていた。ところが大学は、前例がないということで、「淡海生涯カレッジ」のシステムの中に大学の「正規の授業」を組み込むことに難色を示したのである。そのため、センターのスタッフは、大学の職員を対象に「淡海生涯カレッジ」についての説明会を何度も開き、システムの中に「正規の授業」を位置づけることに理解を求め続けた。その結果、最終的には「問題なし」という回答を得ることができ、カレッジの実施に向けてまた一歩前進することができた。

こうした状況の中で、平成8年7月20日の淡海生涯カレッジ開講に向けての準備が急ピッチで進められた。そして、6月半ばに受講生の募集が開始された。募集定員は80名。私もあわただしい中、果たしてどれだけの人がこのカレッジに関心をもってくれるのか、不安と期待が入り交じった2週間を送ったものである。しかし、その不安も前半だけで、日増しに受講希望者は増え続け、募集締め切り日には、実に160名を超える申し込みがあった。抽選が行われ、最終的に100名の受講生が決定した。

そして、大津市内にある琵琶湖研究所で、開講式と第1回目の講義が行われた。私も出席したが、熱心に講義に耳を傾け、ノートをとる受講生の姿を見ながら、県や市の行政、大学、高校、生涯学習センター、公民館といった多様な機関の関係者とともに、時には激しくぶつかり、時には励まし合いながらやってきたことが決して無駄ではなかったことを実感したものである。

平成9年2月、カレッジの事業は無事終了し、同時に文部省からの補助金もなくなったが、生き生きと学ぶ受講生を見続けてきた関係者の間からは、この事業をやめようと言う声はまったく出でこなかった。すぐに次年度からは、県と開校する市が半分ずつ事業費を出し合うことで「淡海生涯カレッジ」の継続実施が決定し、現在に至るのである。

### 3. 淡海生涯カレッジはなぜ続いたのか

平成8年にカレッジが開校してから20年。最近では、3年程で事業が終了する事例が多い中で、これだけ長く続いている事業はあまりないのではなかろうか。カレッジが地域に根付き、継続できたのには、次のような理由があったと考えている。

## (1) ネットワークの力

近年の人々の学習ニーズの多様化・高度化は著しく、単独の機関のみでそれらに対応することには限界がある。淡海生涯カレッジの事業は、各々の機関が抱える限界を乗り越え、もう1段階高いレベルの学習機会を人々に提供するための実験的な試みであった。「教育委員会」と、「公民館」、「高校」、「大学」といった教育機関とのネットワークの力が、事業の質を高めるとともに、事業をここまで継続させてきたのである。

もし、カレッジが「公民館」単独、あるいは「大学」単独の事業として実施されたのであれば、予算の面からも、また企画者の負担の面からも、18~20回にも及ぶカレッジのプログラムを長期にわたって維持することは難しかったであろう。それぞれの機関が、それぞれの特色を出しながらプログラムを作成し、それを組み合わせて一つのまとまりのある学習機会を提供するシステムだからこそ、20年もの間、7ヶ月以上にもわたる学習機会を無理なく継続することができたのである。

## (2) 事業を支える人の力

私は20年、淡海生涯カレッジの「大津校」と「草津校」に関わってきたが、その間、いろいろな人たちとの出会いがあった。そうした人の多くは、たぶんこの事業がなければ出会うことはなかったであろう。教育委員会の生涯学習課の人たち、公民館の人たち、生涯学習センターの人たち、高校の先生たち、そして大学の先生たち、誰ひとり欠けても今のカレッジは存在しなかった。

例えば、この事業が県民に受け入れられるかどうかもわからないような時から、このカレッジに魅力を感じ、必死になって周りを説得しながらカレッジの立ち上げに尽力してくれた人がいた。最初、大津校1校だったカレッジのシステムを県内各地に広げていくために尽力してくれた人、また、まだよちよち歩きだったカレッジを長きにわたって、わが子のように大切に育て、今のシステムを確かなものにしてくれた人もいた。

「問題発見講座」の実施にあたっては、「大津校」の場合、36の公民館すべてにカレッジに関わってもらおうということで、2年ごとに実施する公民館を交代することにしてきた。しかし、どの公民館が担当しようとも、これまでの社会教育事業のノウハウを生かしながら、知恵を絞って、毎年魅力的な講座を企画してくれた。

「実験・実習講座」では、「大津校」では毎年1つの高校が、「草津校」では市内の6つの高校が1回ずつ担当してきた。どちらの校でも、高校の先生たちは忙しい仕事の合間をぬって講座の準備をし、そして受講生にいろいろな経験をさせてくれた。「実験・実習講座」に対する受講生の満足度の高さは、日頃なかなか経験できないことを経験できたという新鮮さとともに、講座を企画し実施してきた高校の先生の熱意のゆえかもしれない。講座を担当したある教員が当時の状況を記した文章がある。その一部を引用してみよう。

○さて、夏休みになると、講師を引き受けた先生方の教材開発に力が入っていた。講師を引き受けた先生方に出会うと、「生涯カレッジの準備のために、今年の夏は忙しい」という悲鳴が聞こえてきた。実験・実習講座は、学校の

外に受講生を連れ出し、生きたフィールドで実習を行うものが多い。仮に実験室での実習であっても、実験材料はあらかじめ、琵琶湖などの自然の中から調達してくるので、その準備は学校外に出て行くことになる。すべての講師が、夏の暑い中をそれぞれのフィールドに下見を兼ねて、教材開発研究に時間をかけておられた。淡海生涯カレッジがここまで成功したのは、それぞれいろいろな部署で多くの方々のご尽力があったお陰であるが、その中の一つに、講座を引き受けた高校教員の努力があったことも忘れないで欲しい。私自身も水質検査に関する研究論文や実験書など書籍を買い込んで、実際に川へ行って水を採取し、予備実験を何度となく繰り返した。また、講師同士がお互いに助手になって、事前準備を手伝うこともあった。たとえば、私は、第4回の講座の準備のために、講師のI先生と実習助手のTさんと一緒に、琵琶湖を一周して、13カ所もの地点で水質調査を行ったり、プランクトンを採取したりした。途中、器具を川に落としてしまい、探し回っているうちに、ずぶ濡れになったことが、今ではいい思い出になっている。

そして、毎年10回に及ぶ「理論学習講座」を提供するために、大学の先生たちもそれぞれの専門の立場から最新の知識や理論を受講生に教授してくれた。大学生ではなく、社会人を相手に話をするというので、ふだん以上に資料の作成に時間をかけた先生もけっこういたようである。「大津校」、「草津校」では、平日の大学の授業も「理論学習講座」に含めているが、正規の授業にカレッジの受講生を快く受け入れてくれた先生もいた。

こうしたカレッジの事業を支える人たち一人ひとりの思いが、淡海生涯カレッジのプログラムの質を高め、事業を継続させてきたのである。

### (3) 受講生の力

淡海生涯カレッジには、開校から20年たった今でも、多くの校に定員を上回る応募者がやってくる。これは、カレッジが地域から受け入れられている証拠であり、その事実がカレッジの継続を後押ししている。また、実際に受講した人のプログラムに対する評価も高く、そのこともカレッジ関係者が実施を継続する大きな力となっているといえよう。毎年、受講生にカレッジを受講しての感想文を書いてもらっているが、この感想文の中には、カレッジで学んだ受講生の素直な気持ちが込められている。

以下では、その一部を紹介し、受講生がカレッジでの学習にどのような感想をもっているのかをみてみよう。

○学ぼうとする人たちとも仲良くなり、年齢の層を超えて学ぶ時間を共有することができ、自分自身を高めることができました。生涯を通じて個人が学べることは微々たるものであり、だからこそ、いろいろな経験・知識・意識をもった人達が、淡海生涯カレッジに集まる意義は大きいといえるでしょう。また、こうして学んだことを、身近な環境に生かす意味は大きいと思います。「グループ学習」では、「地域河川の自然環境に対して人間の関わり」という課題に取り組み、河川の現状把握、生活者の環境意識、態度等、取材を重ねました。これからは、持続可能な循環型社会の実現に向けてより多くの人

環境問題に関心を示していただけるよう、地域での環境保全の推進役として、さらなる努力をしていきたいと思ひます。

- 淡海生涯カレッジでの学習お疲れ様でした。私は幼稚園の教員ですが、当初は自分が興味ある環境学習について何か子ども達に伝えられることはないかな？と思ひ、参加させていただきました。実際自分が得られる情報も限られていたため、この「淡海生涯カレッジ」に参加させて頂けたことで、いろいろな学びがあり、とてもうれしく思っています。この内容をすべて教えることはできませんが、その中でも身近なところで「水を大切に」「ものを大切に」「生き物を愛護する心をもつ」等、子ども達のわかる範囲で伝えていこうと思ひます。
- ほとんどの人達がそうであると思ひますが、少しの参加費で各学習内容のすべてにおいて立派な先生達が講義していただいたことに対して本当に驚かされて、私どものように無知な者は敬服いたしました。その講義内容はわかりやすく、まさしくこれからの生涯の生き方におおいに役立たせていただけるものばかりでありました。また、同時に、県生涯学習課の目的であり、今回のカレッジの目的であります地域活動への支援に役立つものでした。これからも、受講いたしました知識をさらに発展させまして、今後の自身のキャリア形成と各地域の活動への支援を目指していきたいと思ひます。
- 毎回ワクワクしながら楽しく学びました。本当にあっという間の約半年でした。この機会でないとなかなか見学できない所がみれたり、体験できない内容を学べたりと、毎週充実していました。一番印象に残るのは、やはり後半の「グループ学習」です。自分たちが「知りたい」と思ふことについて、様々な場所に出かけ、様々な人に調査を行いました。活動を通じて、「行動してみる自分」に、一歩近づけたような気がします。そして何よりも、普段はなかなか交流のない、人生の先輩と一緒に学び、お話を聞けたことがすばらしい経験でした。
- 地球温暖化やオゾン層破壊等、地球規模の環境問題が日常的に取りざたされ、私たちはそれを避けて通ることはできません。この度の淡海生涯カレッジでは環境問題を多岐にわたる課題で学ぶことができ、大変有意義でした。特に、実験・実習講座では、先生方が熱心にご教授くださり、楽しく学ぶことができました。ここで学んだことをこれからの生活の中で、また地域で生かしていけたらと思っております。

受講生の感想文からは、カレッジで学ぶ中で喜びや楽しさを感じ、そしてその学習成果を何らかの形で生かしていこうという彼らの思いが伝わってくる。そして、こうした受講生の言葉が、われわれカレッジスタッフを「来年もまたがんばってやっぺいこう！」という気持ちにさせてくれるのである。



#### 4. おわりにーこれからのカレッジの課題ー

淡海生涯カレッジのこれからの課題は、やはり、ここで学んだ人びとがその成果を様々な形で生かすことをどう支援していくかである。特に、カレッジの主要なテーマである「環境問題」の学習の目的は、学びを通して環境についての知識を身につけることだけでなく、環境問題の解決のために具体的に行動する人を育てることにある。淡海生涯カレッジの価値も、ここでの学んだ人たちがそれをどう生かしたによって決まるといえよう。

カレッジでは、開校当初から、閉校式では必ず、修了者に対して学習成果の活用場の情報を提供し続けてきた。そうすることで、彼らに学んだ成果を具体的な実践へと結びつけるきっかけを与えたいと考えたのである。

また、私は、受講生が学んだ成果を生かすための支援策の一つは、学びを通して「仲間づくり」だと考えている。上述した、受講生の感想の中に出てくる「グループ学習」を、「理論学習講座」に取り入れたのも、受講生が相互に学び合うことを通して、カレッジ修了後もともに活動していける仲間をつくってほしいという願いがあったからである。実際、グループ学習からは、いくつも自主学習グループが生まれている。体系的に学び続けてきた自信とともに、カレッジでの学びの間に深めてきた仲間との交流・絆が、受講生が学習の成果を実際に様々な形で生かしていく原動力になっているのである。

平成18年に改正された教育基本法では、生涯学習について「国民1人1人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことができる社会の実現が図られなければならない」と規定した。われわれが目指すべき生涯学習社会は、人びと一人ひとりが生き生きと学ぶだけでなく、その成果を様々な形で生き生きと生かすことができる社会であり、それを通して人も社会も豊かになる社会である。

こうした社会の実現に向けて、淡海生涯カレッジはこれからも、県民に、豊かな学びの機会を提供するとともに、その学習成果を生かして地域や社会を豊かなものしようとする人びとを生み出す事業として発展していくことを期待したい。

#### 【参考文献】

- 1) 『地域における生涯大学システムに関する研究開発』滋賀大学生涯学習教育研究センター、1996年
- 2) 文部省生涯学習局『地域における生涯大学システムの整備についてー地域における生涯大学システムに関する研究開発報告書ー』1997年
- 3) 神部純一「淡海生涯カレッジの実践ー大学・高校・公民館をつなぐー」『月刊社会教育（4月号）』国土社、1998年、49～55頁
- 4) 淡海生涯カレッジ10周年記念事業実行委員会・滋賀大学生涯学習教育研究センター『淡海生涯カレッジの挑戦ー学びと生かしの創造、10年の軌跡ー』2006年
- 5) 住岡英毅、梅田修、神部純一『地域で創る学びのシステムー淡海生涯カレッジの挑戦ー』ミネルヴァ書房、2009年

# 淡海生涯カレッジ大津校の実践

大津校実行委員会

## 1. 過去10年間（H18～H27）の概要とテーマの変遷について

大津校は、平成8年度に開校して今年度は20年の節目をむかえた。その間、問題発見講座（公民館での講座）、実験・実習講座（高等学校、生涯学習センターでの講座）、理論学習講座（滋賀大学での講座）という淡海生涯カレッジの特色である継続的、段階的な学習過程を大切に20年間継続してきた。しかし、本カレッジも募集定員や各講座の設定、講座内容さらには講座回数等、この10年の中で変遷している。

例えば、平日、土曜の2コース実施は平成22年度まで、それ以後は今年度までは1コースである。2コースのときは問題発見講座が2公民館、実験・実習講座は市内高等学校と大津市生涯学習センターの2会場で実施していた。そのときは、各コースの受講定員は各25名の合計50名であった。平成23年度からは1コース制となり受講定員30名、問題発見講座1公民館、実験・実習講座1高等学校となった。

講座数も20年前の開講当初から問題発見講座5講座、実験・実習講座5講座、理論学習講座10講座であったのが、平成24年の県実施要領検討会議を経て作成された実施要領に基づいて平成25年度より問題発見講座4講座、実験・実習講座4講座に変わり理論学習講座10講座となった。なお、そのことに伴い修了条件も変わった。問題発見講座、実験・実習講座がそれぞれ3講座、理論学習講座7講座が6講座の出席が修了必要条件となった。これらは、年々減少する受講応募者数の確保ならびに実施機関の負担軽減等を考慮に入れた実施体制でもあった。

### \*過去10年間の実施機関ならびに修了状況

年度	人数（修了者 /受講者）	修了率 %	問題発見講座 開催公民館	実験・実習講座 開催機関・高校
18	28/34	82.4	長等・膳所	瀬田工・生涯学習センター
19	30/48	62.5	滋賀・膳所	大津高・生涯学習センター
20	42/58	72.4	瀬田東・滋賀	大津高・生涯学習センター
21	42/59	71.4	青山・仰木の里	北大津高・生涯学習センター
22	28/45	62.2	青山・仰木の里	北大津高・生涯学習センター
23	24/30	80.0	青山	生涯学習センター
24	25/31	80.6	堅田	堅田高校
25	17/25	68.0	藤尾	膳所高校
26	22/30	73.3	逢坂	膳所高校
27	26/29	89.7	瀬田南	東大津高校
計	284/389	73.0		

### \*テーマの変遷について

平成8年度の開校以来、大津校はメインテーマを一貫して「環境人になろう」を掲げ継続してきた。環境学習と言っても幅広く身近な環境学習からより深く専門的に学習するプ

プロセスを段階的に構成していった。また、環境を幅広く捉え食育や人々の暮らし、自然環境や生活環境、文化までも学習課題としてきた。その変遷は、受講者のニーズや学習展開、講師の講座内容によるところが大きい。

＊過去10年間の大津校のテーマの変遷

年度	大津校のテーマの変遷
平成18年度	環境人になろう～びわ湖及びその集水域の環境から身近な自然・文化及び生活について考えてみませんか～
平成19年度	環境人になろう～身近な自然・文化及び生活について考えてみませんか～
平成20年度	環境人になろう～始めてみよう！身近なくらしから～
平成21年度	環境人になろう～暮らしから変える・つながる・広がる～
平成22年度	環境人になろう～自然と向き合って暮らす～
平成23年度	環境人になろう～自然の恵みを次世代へ～
平成24年度	環境人になろう～自然と文化を暮らしに生かそう～
平成25年度	環境人になろう～自然と文化、暮らしを考えよう～
平成26年度	環境人になろう～自然と共生、暮らしを考えよう～
平成27年度	環境人になろう～豊かな自然、文化、暮らしを次世代へ～

## 2. 実施体制や各実施機関について

### (1) 実行委員会について

淡海生涯カレッジ大津校の実施にあたって全般的に企画、運営等を決定していくのは「淡海生涯カレッジ大津校実行委員会」である。実行委員会は、滋賀大学、滋賀県教育委員会生涯学習課、大津市教育委員会生涯学習課、大津市立公民館、大津市環境部環境政策課、高等学校、生涯学習センターの職員が構成し、年に5回開催してきた。平成25年度からは大津校実施要領の改訂により年に3回の開催となり、実験・実習講座は高等学校のみとなったため、大津市生涯学習センターからの実行委員はなくなった。本実行委員会では、講座内容、予算、受講者決定、修了認定、さらには開閉講式運営等全てにわたって決定している。

#### <淡海生涯カレッジ大津校実行委員会組織>

- ・ 実行委員長 大津市教育委員会生涯学習課長
- ・ 事務局 大津市教育委員会生涯学習課
- ・ 実行委員会構成（平成27年度体制）
  - 滋賀大学社会連携研究センター
  - 滋賀大学環境総合研究センター
  - 滋賀県教育委員会事務局生涯学習課
  - 滋賀県立東大津高等学校
  - 大津市環境部環境政策課
  - 大津市教育委員会事務局生涯学習課
  - 大津市立瀬田南公民館

## (2) 開閉講式ならびに公開講座について

### \*開閉講式

開講式は6月上旬の土曜日に淡海生涯カレッジ学長である滋賀県教育長や大津校校長の大津市教育長ならびに実行委員会の委員が出席の下、平成24年度までは大津市生涯学習センターで平成25年度以降は大津市役所にて開催している。また、閉講式は2月中旬の土曜日に同じメンバーで同会場にて開催している。閉講式には修了証書授与等終了後、茶話会を開催し1年間を振り返り受講生同士の交流の場としている。



開講式風景



閉講式後の茶話交流会

### \*公開講座

大津校では開講式後すぐその場にて問題発見講座の第1講を開催している。本講座はカレッジ受講生だけでなく、公開講座として広く一般市民にも申込みをとり受講していただいている。この講座を受講した市民の方からは次年度に本カレッジを受講応募される方が毎年おられる。カレッジ大津校受講生の意欲的なスタート、さらには次年度以降の受講応募者の拡大を願って開催している。

### \*過去10年間の公開講座

年度	公開講座演題	講師
18	市民が担う持続可能社会 ～里山学の可能性～	丸山徳次 龍谷大学教授
19	持続可能な社会を目指して	仁連孝昭 NPO 法人エコ村ネットワーキング理事長
20	酪農から次世代へ伝える命の輪 ～自然の恵みを受けたわたし流いただきます～	池田喜久子 池田牧場取締役
21	食から考える私たちの環境	西村仁志 同志社大学大学院准教授
22	びわ湖のほとりで学び・・・そして行動へ	前川美和子 第1回カレッジ大津校修了生

23	自然の恵み 楽しみ ～消費で環境貢献～	本荘由美子 琵琶湖ホテル副支配人
24	近江の暮らしを描く ～近江の原風景～	福山聖子 画家
25	山間地農業から食文化を考える ～山菜栽培や朽木の自然を語る～	西澤恵美子 農業士
26	びわ湖の森はトチの森 ～巨木トチノキから学ぶ～	青木繁 巨木と水源の郷を守る会顧問
27	伝統を受け継ぐ檜皮葺 ～檜皮葺は究極のエコ eco～	河村直良 屋根葺師・原皮師

### (3) 各実施機関の講座

#### ①問題発見講座

問題発見講座は、受講生が興味関心を抱き、この1年間学んでいこうとする出発の講座でもある。身近な環境に関わることから、そして極めて焦点化された環境ではなく暮らしや文化、歴史をも含む広義な環境講座として提供していった。また、実際に見学し体験する講座や、その公民館の地域の自然や人的環境を活用した特色ある講座を提供していただいた。こうしたプログラム作成や講座運営には公民館スタッフの献身的で創造的な力に寄るところが大きい。少し過去の講座を紹介する。

#### 『牟礼山の恩恵を紡いでいく技・その軌跡』

牟礼山森林クラブ

- ・子どもたちが安全に遊べる里山
- ・“携わる人たちの思い”が安全に遊べる里山
- ・地域活性化へ向けた伐採竹の有効活用

H23. 7. 8 実施 (青山公民館担当)



#### 『里山を訪ねて』～仰木の風土と祭り～

成安造形大学附属近江学研究所 加藤賢治氏

- ・仰木の里山を訪ねる (馬蹄形の棚田見学)
- ・小椋神社で歴史を学び仰木祭の謂れを学習
- ・成安造形大学にて加藤賢治先生の講義とワークショップにて講座の集大成

H24. 7. 14 実施 (堅田公民館担当)



『夢からはじまったローザンベリー多和田』

ローザンベリー多和田社長 大澤恵理子氏

- ・コンセプト説明、ガーデン散策、収穫体験
- ・体験型観光農園でのジャガイモ収穫体験
- ・自然から学び自然の中に命がある事を体験

H25. 7. 6 実施（藤尾公民館担当）



『吾妻川の愛護活動と草木染体験』

逢坂の川を愛する会 会長 田中博氏

藤三郎紐 四代目 太田耕吉氏

- ・吾妻川の美化・愛護活動の取り組み
- ・藤三郎紐の太田耕吉氏より草木染の講義
- ・草木染の実体験

H26. 6. 28 実施（逢坂公民館担当）



②実験・実習講座

本講座は大津市内の高等学校と大津市生涯学習センター双方が担当してきたが、平成24年度以降は高等学校での実施のみとなった。高等学校での講座は主に理科の先生が中心であったが、家庭科、社会科等の教科の先生も担当していただいた。講座の教材準備や事前の準備等、かなりの時間を割いていただき苦勞していただいた。そのためか、受講生はその指導に感心し興味関心を持って意欲的に学んでおられた。実施後のアンケートでも高い評価を得た。

『自然の恵み びわ湖と共に生きる』

～漁師からみた今・むかし・そして未来～

元湖南漁業組合長 田中政之氏

- ・琵琶湖でのしじみ採り体験
- ・漁師からみた琵琶湖の変化について

H23. 7. 29 実施（生涯学習センター担当）



『理科実験実習』

滋賀県立堅田高等学校 理科教員

- ・古琵琶湖総群の堅田層の化石観察
- ・トウヨウゾウの足跡化石や火山灰層、小断層群の観察
- ・花折断層によってできた巨大断層破碎層を見学

H24. 9. 1 実施（堅田高等学校担当）



### 『身近な水を化学的に分析してみよう』

滋賀県立膳所高等学校 理科教員

- ・琵琶湖の水、河川の水、生活排水などを化学的な手法を使って分析
  - ・モリブデン青法によるリンの検出等
- H25. 8. 24 実施（膳所高等学校担当）



### 『ヨシノボリ類の分類と由来』

滋賀県立膳所高等学校 理科教員

- ・天神川、大戸川に生息しているヨシノボリを実体顕微鏡で観察
  - ・滋賀県におけるヨシノボリの生息分布について
- H26. 8. 2 実施（膳所高等学校担当）



### ③理論学習講座

理論学習講座は、滋賀大学が担当しており大津校と草津校の受講生が合同で受講している。本講座は、過去のカレッジ修了生が多く所属している滋賀大学環境学習支援士会の方に受付や講座の準備等お世話になっている。また、滋賀大学の先生方には講座での講師として大変お世話になっている。カレッジ受講生は大学キャンパスでの講義や一般学生との合同講義である平日正規講義（琵琶湖学特論）で学生時代に戻った気分で楽しくより深く学んでいる。



### ④グループ学習

滋賀大学での理論学習講座受講後の時間を利用して、テーマごとに分かれて自主的にグループ研究が実施されている。テーマは「ゴミの減量・リサイクルをどう進めるか」「身近な自然環境を守るためには」「滋賀の風土と伝統を守るためには」「食育から環境を考える」の4テーマである。メンバーの人たちは自主的に研究を進め理論学習講座の最終日に研究発表を実施している。

## <過去のグループ学習の研究テーマ例・・・一部紹介>

- ・ H20 「アオコから琵琶湖の環境を学ぶ」  
「秋の七草が咲く里山を子どもたちにバトンタッチー里山再生の現状と課題ー」
- ・ H21 「セタシジミから琵琶湖の環境を学ぶ」  
「廃プラスチックのリサイクル化に関する分別回収手法の最適化」
- ・ H22 「食育から環境を考えるー環境調和型食物生産への志向ー」
- ・ H23 「滋賀の風土と伝統を守るためにはー伝統行事「オコナイ」から学ぶー」
- ・ H24 「身近な自然を守ろうー滋賀の野山の荒廃ー」  
「滋賀県の伝統と風土を守るためにはー雑煮を食す文化を調べてー」
- ・ H25 「食育から環境を考えるー自らの健康を維持する食事を考えるー」
- ・ H26 「滋賀の風土と伝統を守るためには」  
ー草津追分野神社祭禮と木地師の里東近江市君ヶ畑・蛭谷の現状からー

### (4) 選択講座

カレッジ本講座以外に大津校では選択講座として受講生に受講案内をしている。選択講座を受講すればカレッジの講座としてカウントしている。選択講座は、さらに幅広く環境について学んでいただく機会として提供している。

#### \*平成26年度選択講座

- ・ 大津市環境政策課主催事業：自然家族事業「びわ湖の日」「びわ湖漁の日」「山の日」
- ・ 琵琶湖博物館主催事業：「指導者向け博物館活用講座」
- ・ おおつ環境フォーラム主管事業：「おおつ市民環境塾2014」⇒10講座
- ・ 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター主催事業：「びわ湖セミナー」
- ・ 滋賀大学環境学習支援士会・滋賀大学共催：「滋賀大学環境シンポジウム」

### 3. 受講者について

大津校は淡海生涯カレッジ開設時、平成8年度に開校している。今年度で20年間という歴史が刻まれている。受講生は延べ総数で920名（H27年度含）、その内修了者数は628名（H26年度まで）、修了率は70.5%である。平成18年度～平成27年度の10年間では、受講生総数389名（H27年度含）、修了者総数258名（H26年度まで）、修了率は71.7%である。このように20年間続いている事業である淡海生涯カレッジ。そして、7か月間という比較的長い期間を学び続ける受講生のみなさん……。その続く秘訣は一体何か？ それは受講生からの感想からも伺える。公民館から高等学校、大学という学習システムの変化、そしてそれぞれの実施機関の講座内容の創意工夫である。また、学ぶ人たちと講師の方の意欲や熱意を強く感じ、そのことも大きな要因である。学びのテーマ「環境」の持つ魅力、琵琶湖のある大津、滋賀の自然と人々との営みが学ぶ人を引き込むのであろう。また、学ぶ人同士の出会いと学びあうことにより人との関わりや繋がりができることも大きな魅力である。こんな魅力がいっぱいだからこそ淡海生涯カレッジ大津校が20年間も続いたのだと思われる。



\*過去10年間の受講者数および修了者数等の表

淡海生涯カレッジ大津校の過去10年の申込み状況

	定員	申込者数	受講者数	修了者数
平成18年度	平日 25	24	24	21
	土曜 25	10	10	7
平成19年度	平日 25	22	22	14
	土曜 25	27	26	16
平成20年度	平日 25	33	33	26
	土曜 25	27	25	16
平成21年度	平日 25	34	32	21
	土曜 25	29	27	21
平成22年度	平日 25	25	23	17
	土曜 25	22	22	11
平成23年度	平日 30	39	30	24
平成24年度	土曜 30	36	31	25
平成25年度	土曜 30	25	25	17
平成26年度	土曜 30	32	30	22
平成27年度	土曜 30	38	29	—

淡海生涯カレッジ大津校 受講生年代一覧

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
20代	1	3	1	0	1	0	0	0	0	0
30代	3	2	2	0	1	2	0	0	0	0
40代	3	9	8	3	7	0	3	2	3	1
50代	8	12	9	11	7	4	3	1	1	3
60代	15	19	30	34	21	21	14	14	13	15
70代以上	4	3	8	11	8	3	11	8	13	10
合計	34	48	58	59	45	30	31	25	30	29

\*受講者の感想（各年度発行の記録誌より1部抜粋）

○問題発見講座及び実験実習講座では、初対面の方々と仲良く取り組みができて毎回参加するのが楽しみでした。また、目からウロコの事柄も多々あり、今後の生活に役立てたいと思います。理論学習講座は、憧れのひな壇に座って講義を受けましたが、私には難しい事もあり、居眠りをしたこともありました。地球規模の環境問題に少しばかり足を踏み入れられた気がします。

○青山公民館の講座では、地域に根ざした方々の活動について学びましたが、中でも地元青山の牟礼山に対する思いを着々と実に結ばせている方々の活動に感銘を受けました。

生涯学習センターでのびわ湖の船上体験、西の湖のヨシ原、環境科学館のプランクトン観察等、いつも見ているだけでのびわ湖を肌で感じる貴重な機会でした。また、年代を越えた仲間ができたことも大きな収穫で、受講して本当に良かったと思っています。

○大阪から大津に引っ越して4年目。滋賀県は自然に恵まれ、歴史的にとても古く、知れば知るほど、興味深く、素敵な楽しいところだと日々実感しています。今回カレッジに参加し、ブルーベリー、しじみ、ヨシ、里山さらに盛り沢山の環境問題を学びました。これから学んだことをどのように生かしていくのか、また目の前の美しい琵琶湖をいかに守っていくのが私の課題です。まず、身近なことから実行し、またもっと滋賀を知りたいと、今思っています。

○何年前「豊かな海つくり滋賀大会」があり、地域の公園を流れている川の水質検査を仲間調べ参加したことがある。環境問題とは、びわ湖、ゴミ、水、空気、土壌と思いつく。それらについて、幅広く深くデータ等に基づいて現状をいろいろ教わり、今では、地域・国・世界に、さらに地球規模でより良い環境に、取り組んでいることに対し大いに感動した。最年長で図らずも華の女子大生になり得たこの企画にめぐり会えたことは、有り難く又知らないことの多さに驚いています。

○これまで団塊の世代・企業戦士の一人として生きることで精一杯でした。ところが、大津校での体験や学びから新しい価値観が生まれ始めようとしています。「琵琶湖を中心とする環境保全にどのようにかかわっていけばよいか」あまりにも壮大なテーマゆえ、答えを求めようとは思いませんが、「少年時代の故郷の原風景」の一部でも取り戻すために何ができるのかと考え始めました。新しい世界を教えていただきました関係の皆様へ感謝申し上げます。

○どうしようか迷ったあげく、締切日での受講申込みでした。当初は妻も一緒のつもりでしたが、言い出した自分の方が抽選で外れたら、との思いから私だけにしました。カレッジでは、多くの方にお出会えました。綿向山の山歩き、瀬田川でのしじみ採り等は初めての体験でした。昔を思い出す講義や実習、全てが新鮮で楽しい日々でした。最初は迷いましたが、受講してよかったと確信しております。ありがとうございました。

○3講座の中で、滋賀大学での理論学習講座が最もおもしろかった。大学ではこのような楽しい、興味深い講義が行われているのかと学生を羨ましく思ったくらいである。深く研究されている専門分野の講義だけに1つ質問すると10ほど答えが返ってくるという何とも楽しい講義が多かった。問題発見、実験・実習講座はその道を究めた先生方の話を聞いたが、皆熱心すぎて、予定時間を守れないケースが多々あったのは残念である。

○平成8年度に開校されたという歴史あるカレッジに学ぶ機会をいただき、無事に終了の運びまでがんばることができました。関係者各位の皆様にお世話いただいたことに厚く感謝申し上げます。限られた狭い地域であっても、公民館の核として、小中高校をも巻き込んでの世代を越えた「環境・まちづくりの学習」の体系・継続性のあるシステムが構築されて、地元でもたくさんの方が気軽に学習できることを提案したいものです。

○大津校の前期2講座は、当初予想していたものより遥かに充実していた。堅田近辺に住んでいてもあまり目に触れないもの、場所が講義対象となっており新たな知識を得ることができた。更に、久しぶりに絵筆、郷土料理は非常に楽しいものであった。後半の草津校との合同講座は大学での講義もさることながら何と言ってもグループ学習が素晴らしかつ

た。前期の問題発見講座と学習が結びつき、単に座学を受けた以上のものを得られた。

○自然と文化、暮らしを考える機会となった淡海生涯カレッジを受講できたことに感謝しています。藤尾公民館での問題発見講座、膳所高校での体験的学習、滋賀大学での専門的学習へと、継続的・段階的に学習でき、更に多くの選択講座を受講できるシステムは、本当に素晴らしいものでした。環境学習船で水環境を学習する選択講座を受講しましたが、機会があれば今回受講できなかった他の選択講座にも参加してみたいと思います。

○「とても楽しかった。」の一言です。琵琶湖をとりまく問題が、森や川とつながっていることから、視点の異なる専門の先生から受ける授業はいつも解り易いお話と趣向を凝らした楽しいものでした。環境をこんな方面からも改善できるのかと思った「環境の経済的価値とその評価」の講義は、成程と思いました。カレッジのどの講座も素晴らしく、紹介いただいた選択講座も参加させていただき、充実した1年を過ごすことができました。また、参加したいと思います。

○受講で強く印象に残っているのは琵琶湖のプランクトン『ビワクンショウモ』です。採取した水を私のスポイトが吸い上げた一滴が顕微鏡の中で姿を現した時、その美しさに叫びそうになりました。勲章というよりレースのモチーフのような繊細な緑色の形はテキストの写真より美しく一瞬に魅了されました。先生も大興奮で写真を写す人もいました。あの優美な姿とあの時の高揚感は思い出すたびに蘇ってきます。

#### 4. 淡海生涯カレッジ大津校の成果と今後について

淡海生涯カレッジの事業が、とりわけ大津校が開設から20年間も続くというのすごいことで、そのことが大きな成果と言える。過去の修了生には、その後滋賀大学環境支援士会へ入会し多くの方が活躍されている。また、環境フォーラムやびわ湖フローティングスクール「湖の子サポーター会」へも登録されている。さらには、第1期生で結成された『ぼてじゃこトラスト』や、『菜の花プロジェクト』でも活躍されている。このように、カレッジで学んだことを契機に学んだ成果を地域や環境への市民の活動の場を通して行動を起こしている。

カレッジは概ね7ヶ月という長い期間の学びである。その中で学ぶ仲間の結びつきが生まれる。年齢や職業も違う人たちが学びあう中で交流が生まれ新しい出会いがある。また、退職し勤めを終えた人たちの再学習の場でもあり、まさにカレッジは生涯学習の場を提供してきたと思う。カレッジを修了したほとんどの人は、その意義と価値を大いに評価されている。ただ、若い人たちの参加が少なく、幅広く本カレッジの存在が知られていないようである。広くアピールする方法や努力が足りなかったのかもしれない。今後の課題と思われる。

また、毎年を受講後のアンケートを見ると、テーマを環境・自然に限定せず歴史や人物、暮らしや文化・伝統、観光等、学びのテーマを広げて欲しいとの要望も多くある。こうした意味に於いて、今後、大津校として大津の自然や環境を大事にしながらも、大津そのものを多方面から学ぶ場を提供することが重要だと思われる。これからの講座が、大津を再発見する場となり、そして学んだ人たちが1つの力となり大津のまちに広がり、主体的にまちづくりに貢献していくことを願うものである。

# 淡海生涯カレッジ草津校の実践

草津校実行委員会



## 1. テーマについて

私たちを取りまく環境は、近年大きな変化をみせており、大量生産・大量消費・大量廃棄や効率性・利便性の追求の代償として、温室効果ガスや廃棄物の排出量の増加、身近な生きものの減少と言った課題に直面しています。こうした問題は、誰かが解決してくれるのを待っているだけでは、悪化の一途をたどるばかりです。今を生きる私たちが、次代を担う子どもたちのために環境を守る一歩を進めなければなりません。

カレッジ草津校では、平成12年の開校以来、「環境文化の創造」をテーマに自然環境・生態系・ごみ処理やリサイクルなど身近な環境問題を仲間とともに学び、日々の暮らしのなかから環境問題について考え、一人ひとりが環境負荷軽減のためにできることの実践につなげてきました。

平成27年度については、下記プログラムで学びの場を提供しています。

### 【 問題発見講座 】

回	日時	講座テーマ・内容	講師	場所
1	6月20日(土)	開講式／これからの環境学習の進め方・活用の仕方	滋賀大学環境学習支援士会 橋田 卓也 氏	草津市役所8階 大会議室
2	6月26日(金)	企業における環境配慮への取組みについて	パナソニック株式会社 アプライアンス社	パナソニック株式会社 アプライアンス社
3	7月11日(土)	食と環境について 滋賀県での取組み	滋賀県食のブランド推進課	草津市役所8階 大会議室



## 【 実験・実習講座 】

回	日時	講座テーマ・内容	場所
1	8月 1日(土)	草津ブルー復活のカギ 早朝のあおばな摘みから染色体験	湖南農業高等学校
2	8月 29日(土)	理科実験 水の性質について	光泉高等学校
3	9月 5日(土)	DNA を見てみよう DNA を調べてみよう	玉川高等学校
4	9月 12日(土)	「練る」 科学部の生徒のみなさんも一緒に	草津東高等学校
5	9月 26日(土)	遊びにひそむ数学	草津高等学校



## 【 理論学習講座 】

回	日程	担当	演題
1	10月 3日(土)	神部 純一 教授	学ぶこと生かすこと
2	10月 10日(土)	三田村 緒佐武 教授	琵琶湖水系の治水と利水と環境を診る
3	10月 17日(土)	宮本 結佳 講師	アートプロジェクトを通じた景観創造
4	10月 31日(土)	藤岡 達也 教授	滋賀県の自然環境と自然災害
5	11月 14日(土)	石川 俊之 准教授	びわ湖に生息する生物のつながり ―湖沼生態系とは―
6	11月 28日(土)	神崎 宣次 准教授	外来種問題と「自然」
7	12月 5日(土)	久保 加織 教授	滋賀の食とその伝承に向けた取り組み
8	12月 12日(土)	森 太郎 講師	人と環境と考えた食料生産をめざして
9	12月 19日(土)	市川 智史 教授	環境教育・環境学習って何だろう
10	1月 30日(土)	全員	グループ発表会

問題発見講座・実験実習講座・理論学習講座と全18回の講座を通じた積み上げが、サブテーマである『ひとりではじめ みんなで進める環境づくり』につながっていることを期待しています。

## 2. 実施体制について

学習プログラム・予算編成などの運営については、年3回の実行委員会において決定し進めています。草津校における実行委員会組織は、次の通りです。

淡海生涯カレッジ草津校実行委員名簿

分	実施機関名	氏名
実行委員	国立大学法人滋賀大学社会連携研究センター	(教授) 神部 純一 <small>かんべ じゅんいち</small>
	国立大学法人 滋賀大学教育学部	(准教授) 宮本 結佳 <small>みやもと ゆか</small>
	滋賀県立草津東高等学校	(教頭) 辻田 浩 <small>つじた ひろし</small>
	滋賀県教育委員会事務局生涯学習課 学習振興グループ	(社会教育主事) 辰巳 剛 <small>たつみ つよし</small>
	草津市環境経済部環境課 環境グループ	(グループ長) 小川 卓史 <small>おがわ たくし</small>
	草津市教育委員会事務局 生涯学習課	(課長) 奥谷 美津子 <small>おくたに みつこ</small>
事務局	草津市教育委員会事務局生涯学習課 生涯学習・青少年グループ	(グループ長) 吉田 万里 <small>よしだ まり</small>

## 3. 受講者について

JR、自動車いずれも交通の便がよく、市外から受講される方が多くおられます。残念ながら、ここ数年は受講者数は定員を下回っていますが、その分アットホームな雰囲気、楽しみながら学習を進めています。

### 受講者数の推移

年度/年代	人数	30代	40代	50代	60代	70代~	男性	女性	市内	市外
22年度	31	2	3	9	16	1	18	13	22	9
23年度	25	0	1	5	14	5	15	10	15	10
24年度	27	0	2	6	13	6	20	7	22	5
25年度	22	1	0	2	13	6	13	9	11	11
26年度	22	0	1	6	9	6	12	10	13	9
27年度	22	1	0	3	7	11	17	5	7	15

問題発見講座、実験実習講座でのワンシーンと、感想を紹介します。

## 問題発見講座

- 環境学習支援士会の活動状況が理解できた。特に環境学習について、実践的な交流と支援等を主体的に行っている様子が理解できた。
- 我々琵琶湖の近くに住んでいる者は現状が当たり前と見ているが、外部からは美しい湖と見ておられる。県民がよりよく理解して大切な琵琶湖を守っていかねばならないと思う。
- 省エネ住宅を見学し、エコナビを使用した各種家電製品についての説明を聞く。環境に配慮した製品の開発に注力している現状を知った。
- 社員食堂で使用する野菜は「地産池消」との事ですが、地域の農業の活性化を図ることができ、また消費者と産地の距離が短いと低輸送コストになり、環境にもやさしいと思います。
- こだわり農業の認証を受ける農家へのチェックは大変な作業ですね。こだわり農業を推進するチェック機関は、こだわり農家が広がっているとの成果を見せるために、チェックが甘くなると思われるし、どうしても農業者は高く売れる農作物を作りたいので、農薬を使いたくなるだろうから、チェックをすり抜けようとするだろう。やはり、本来は、環境への消費者意識変革が第一に取り組むべき事だと考えられる。



- 環境こだわり農産物は栽培基準があり、生産農家さんは大変だと思いますが、琵琶湖や周辺環境にも配慮ができ、また安心安全な農産物を提供されている取り組みであることを認識しました。今後できるだけ購入したいと思います。

## 実験実習講座

- 簡単にできるものではなく、散々手を黒くしてやっと染まるのが良く分かりました。
- 顕微鏡で観察した”水中生物”、その姿をはっきりと確認できた時の満足感、久しぶりでした。



# 淡海生涯カレッジ甲賀校の実践

甲賀校実行委員会

## 1. テーマについて

平成27年度、淡海生涯カレッジ甲賀校開校。講座は、地域の人材・施設を活用した問題発見学習と地元県立高校・養護学校での物づくり実習・ワークショップ、そして、立命館大学における理論学習の3部構成となった。

テーマを「郷土の知恵と技に学ぶ」とし、有形・無形の文化財や地域の課題についての知識を習得し、それを基礎としながら、①それぞれのライフステージを充実させる ②一人ひとりが社会に主体的に関わっていくための技能や判断力を身につける ③地域活動（コミュニティ活動）やボランティア活動の実践に結びつけるの3ステップを学習目標として掲げた。



(広報用ポスター)

甲賀市には、古くから隣組組織があり、寺社を核とした檀家・氏子制度がある。甲賀武士団が活躍した中世には「郡中惣」という強力な自治運営組織があった。生産活動については、農業・茶業・林業・窯業…共に気候や地形などの自然条件を生かした特徴ある発展があった。



そこで、こうした地域の特性をふまえ、学習の窓口を、①暮らしの技に学ぶ ②伝統の技に学ぶ ③匠の技に学ぶ ④人を繋ぐ技に学ぶ、以上の4領域に整理し、前述した文化財や受け継がれてきた熟練の技を題材とした講座や地域を繋ぐムラづくりの現場からの報告を講座に組み入れ、地域の課題発見に努めることにした。実習講座には、作陶や皮革工芸、和の心や人の尊厳についての学習を入れ、学習の深化を図ることにした。結果、まちを見る目を磨くための縦・横軸となる歴史・地理両面を視野に入れた多岐にわたる学習課題の設定となった。

そして、大学での理論学習に繋ぎ、受講生一人ひとりが、サブタイトル「新しい自分づくりとまちづくり」の下で自分を一層磨き、それぞれの立場で、新しいまちづくりへの参加意欲を高めることに期待して、甲賀校は新規開校となった。

講座一覧は次表（表1）のとおりである。





(表1)

平成27年度 淡海生涯カレッジ甲賀校講座一覧表				
【問題発見講座】				
回	月 日	会 場	講師 (敬称略)	テ ー マ
1	6月13日(土)	甲南図書交流館	立命館大学客員教授 金井 萬造	技芸の伝統から地域を見直そう ～環境・生活・文化・交流～
2	6月27日(土)	県立陶芸の森	陶芸の森館長 川口 雄司	焼き物の魅力を知る ～地場産業「信楽焼」について～
3	7月11日(土)	貴生川公民館	飯道山観光協会相談役 山田 耕造	飯道山が結ぶ地域の輪
4	7月25日(土)	油日神社、櫛野寺	甲賀市歴史文化財課参事 長峰 透	歴史ある寺社と華麗な建築美
【実験・実習講座】				
回	月 日	会 場	講師 (敬称略)	テ ー マ
5	8月 8日(土)	県立信楽高等学校	同校セラミック科 杉村 大樹	焼き物づくりに挑戦 ～陶製「表札」の作成～
6	8月29日(土)	県立水口東高等学校	同校教諭 縄田 美夏	皮革工芸を楽しもう ～皮革工芸によるオリジナルの小物づくりに挑戦しよう～
7	9月 5日(土)	県立三雲養護学校	同校教諭 寺岡ゆみ子	障がい者理解を進めるために ～疑似体験プログラムを使って～
8	9月12日(土)	県立石部高等学校	同校教諭 三好 有佳	和のおもてなし ～家庭でできる季節の和菓子づくり～
【理論学習講座】				
回	月 日	会 場	講師 (敬称略)	テ ー マ
9	10月 3日(土)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	立命館大学経営学部教授 肥塚 浩	超高齢社会の医療介護連携と生活支援サービス
10	10月10日(土)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	同スポーツ健康科学部准教授 藤本 雅大	運動機能の評価と介護予防に向けた運動療法
11	10月17日(土)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	同スポーツ健康科学部教授 藤田 聡	家庭で取り組む筋トレ (健康バンド運動)
12	10月24日(土)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	同経済学部教授 松原 豊彦	農と地域の未来を開く「6次産業化」
13	10月31日(土)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	同経済学部教授 松原 豊彦	消費動向をみすえた6次産業化の推進
14	11月14日(土)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	同経済学部客員教授 金井 萬造	着地型観光手法によるコミュニティ・まちづくり
15	11月21日(土)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	同経営学部教授 肥塚 浩	ひとのつながりを活かした地域づくり

## 2. 実施体制について

平成27年5月20日、第1回実行委員会開催。役員選出(表2)後、開催要項の検討、講座内容・収支予算の承認を行った。また、事業の円滑化を図るため、前湖南校より運営委員として3名を実行委員にお願いした。

その後、応募状況の中間報告を行い、定員(30名)超過が明らかになったため、抽選を行うことにした。(応募者最終状況:表3)

淡海生涯カレッジ甲賀校実行委員会名簿 (表2)				
NO	委員等	所 属	氏名(敬称略)	役職
1	実行委員	甲賀市教育委員会教育長	山本 佳洋	校長
2	実行委員	立命館大学教授	岡本 直輝	座長
3	実行委員	立命館大学地域連携課長	古橋 由一郎	副座長
4	実行委員	県立信楽高等学校教諭	青木 正和	
5	実行委員	運営委員	姉川 孝一	会計
6	実行委員	運営委員	松尾 裕	監査
7	実行委員	運営委員	伊藤 清美	
8	実行委員	社会教育委員の会議委員長	一宮 守	監査
9	実行委員	滋賀県教育委員会事務局生涯学習課社会教育主事	辰己 剛	
10	実行委員	甲賀市教育委員会事務局社会教育課長	澤田 邦広	実行委員長

応募者最終状況(表3)	
応募者総数	57名
男	30名
女	27名
市内	36名
市外	21名
年代別20代	2名
30代	2名
40代	2名
50代	7名
60代	30名
70代	12名
80代	2名

### 3. 受講者について

厳正な抽選により30名の受講生が決定した。しかし、応募者の中に強い受講希望があり、条件が許す講座に限り一部受講生として6名の出席を認めることにした。計36名の内訳は、男19名、女17名、市内21名、市外15名で、年代別では、60代が最も多く19名、ついで70代の7名となった。

以下、これまでに終了した講座について、受講生の声を一部記す。

#### 第1回講座

- ・「自分はどんなまちに住みたいのか」の願いを、まず持ちたい。
- ・地域の技芸を高齢者の力を借りて高め、人づくりに努め、若者に繋いでいきたい。
- ・自分の考え方と社会の価値観に違いのあることがわかった。
- ・産業、文化、観光、生活など、あらゆる分野で地域の持つ力を最大限活用する方法をさぐりたい。
- ・本日の講義は概論であり、間口が広すぎた。次回以降に実例を聞きたい。
- ・本日の講義を受け、今後の講義の奥深さを感じ、学びたい思いが高まった。

#### 第2回講座

- ・信楽焼を歴史からしっかりと学んで鑑賞する初めての機会となった。
- ・陶土の確保をどのようにされておられるのかをずっと疑問に思っていたが解決した。
- ・ライフスタイルの変化に合わせてながら、信楽焼がどのように変化してきたのかを知り、生活に根ざした生産活動が必要だと思った。
- ・芸術性の追求と産業としての陶器づくり、この融合、調和、発展が難しい。
- ・登り窯に初めて接したこと、外国人アーティストと話したことなど、ワクワクすることが多かった。
- ・川口館長の話やPPがわかりやすく、大変興味を持った。もっと時間がほしかった。
- ・岡本太郎展では、タイトルのごとく、その言葉から、作品の力強さを感じた。
- ・問題を投げかけていただき、ワークショップ等で深く掘り下げればいいのか、と思う。



(金井講師: 技芸の伝統から地域を見直そう)



アトラクション 「大人ののおはなし会」  
ボランティアグループ:「紙ふうせん」



(川口講師: 焼き物の魅力を知る)



(登り窯前で学芸員説明)

### 第3回講座

- ・地域のつながりを、信仰を通じて関わり深く取り組まれている様子が大変よく伝わってきた。
- ・「利他の心」は、地域で生活をしていく上で、また、社会の中でよりよく生きていく上で大切にしなければならないことを再認識した。
- ・飯道山が比叡山・高野山と関わりのある信仰の山であることを知らなかった。
- ・近くに住んでいながら、一度も登ったことがない。地域を知るいい機会になった。是非登ってみたい。
- ・木食応其上人の遺徳に触れ、また、多くの資料を準備していただきありがたかった。
- ・今日は「生き方」の学習をした。普段は気づかずに過ごしていることが多いのだが、「考えること」が大切であることを教わった。
- ・忍者と修験道信仰・行者、飯道山とのつながりをもっと詳しく聞きたかった。

(飯道山行者講:夏まつり)



(山田講師:飯道山が結ぶ地域の輪)

### 第4回講座

- ・豊富な森林資源が社寺建立の用材調達を可能とし、後の製材業や大工職を育て、現在の産業を生み出した。
- ・歴史的な背景を学んだこともあって、油日神社の楼門・廻廊・拝殿・本殿のすばらしい容姿に魅了された。
- ・甲賀の前挽鋸が、県下初の国文化財に指定された。我が家にあった当時の古い道具を残しておけばよかった。



(前挽鋸)

- ・「甲賀郡中惣」という自治組織形成に興味を持った。
- ・櫛野寺の木造十一面観音坐像が安置された理由を学習した上、ご住職の特別な計らいで拝観できたことは幸運であった。
- ・長峰先生には、短時間に盛り沢山の内容を、立て板に水のごとく雄弁にご講義され、聞き惚れた。時間を延長してでも聞きたい位だった。
- ・わかり易い資料と説明、および現地での見学と詳細な説明で、甲賀の歴史と文化そして、地域の繋がりの中で変遷・発展を経て、今の甲賀がある過程がよくわかり、興味深くご講義を拝聴することができた。



(長峰講師:歴史ある寺社と華麗な建築美)



(櫛野寺住職の話)

(市東北部・鈴鹿眺望)



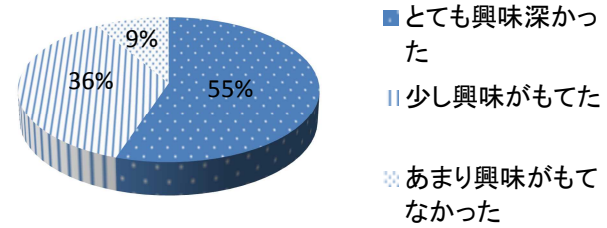
#### 4. 学習記録より

本校では、毎回、受講生に配布した講座日誌に学習の記録を記入し、提出を求めている。その内容は、講義の内容（グラフ1）と講義の難易度（グラフ2）そして、記述方式で、印象に残ったこと、講義に関する感想、気付いた点の5項目である。

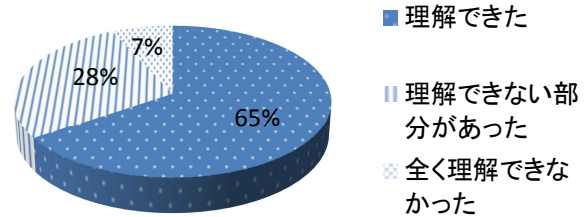
問題発見学習計4回を終わった時点での状況は、各回により違いはあるが、集計をすると円グラフのとおりである。

内容・難易度とも良好であったことがうかがえる。印象や感想については、前項で示したので、その他、運営面での意見を記す。

講座の内容について(グラフ1)



講座の難易度について(グラフ2)



- ・市内にあるこのような名所・旧跡をもっとPRして、多くの方に来てもらいたい。
- ・屋外で案内役に立っていただき感謝します。スタッフの方の健康が心配だ。
- ・コーヒーの準備がうれしかった。
- ・バスでの移動など、細かな手配がありがたかった。
- ・受講生同士の交流の場をつくってほしい。
- ・他の受講生のお考えやお受け取り方が知りたい。
- ・名前は聞いていても、実際に行ったことがなかった。いい機会となった。
- ・現地学習は、よくわかって楽しく学べた。
- ・資料が多い場合、資料番号などをつけていただくとありがたい。
- ・メモをとるための机は各回とも準備してほしい。
- ・時間の関係もあるが、学生への講義ではないので、もう少しゆっくりと話してほしい。
- ・会場がわかりにくいので、のぼり旗などを用意されてはどうか。
- ・部屋のエアコンの効きが悪く暑かった。

#### 5. 次年度以降の運営について

##### (1) 運営組織

平成27年度は、実行委員数10名で臨んだが、講座の組み方や運営委員・事務局スタッフとの関わりで、その増減を考えなくてはならない。

##### (2) 学習テーマ

実施要領では、現代的課題の中からニーズに応じて年度ごとに学習テーマを設定することになっている。本市における課題は、①生命・健康 ②人権・豊かな人間性 ③家庭・介護・子育て・福祉 ④地域連帯・まちづくり・交通・環境・情報活用 ⑥産業…と、多方面にわたっている。学習に入る順位づけも、実行委員会で今後検討していきたい。

(以上)

# 淡海生涯カレッジ彦根校の実践

彦根校実行委員会

## 1. テーマについて

彦根校は、平成 16 年度から“健康”をテーマとして開催してまいりましたが、受講生のニーズや、彦根の歴史と伝統を生かそうと考え、平成 25 年度からは、テーマを“学ぶ力は「生きる力」～歴史・文化・健康を学び、自分らしい生き方を探そう～”にリニューアルしました。また、仲間づくりにも力を入れ、「ともに学び合う楽しさ」や「つながることの良さ」を実感していただき、学習成果の発揮につながるよう応援しています。



## 2. 実施体制について

### (1) カレッジオブザーバー

彦根校では、平成 12 年度からカレッジオブザーバー制度を設け、修了生の中から希望される方に就任いただいています。そのうち 4 名のオブザーバーには、実行委員会にも参画いただき、プログラム内容や講座の運営について、経験を生かした意見をいただいています。講座においては、受付や案内・誘導、グループでの話し合いやワークショップではファシリテーター的な存在を担っていただいています。



### (2) 講座の特色

#### ○仲間ができる！

開講式後の第 1 講では、「仲間づくりのために」と題して、ワークショップを行っています。アイスブレイクで心と体をほぐし、グループでの自己紹介や語り合い活動を通して、ともに学習する仲間のことを知り、学習の目的を共有できるように努めています。



また、全講座を通じてグループ活動を積極的に取り入れています。問題発見講座の健康をテーマにした講座では、グループごとに協力して調理実



習を行います。また、高校での実験・実習講座でも班ごとに調査を行ったり、顕微鏡を使って観察を行ったり、グループで机を囲み実習に取り組みます。大学での理論学習講座においても、感想などを話し合う時間をとり、意見を交流する機会を設けています。

### ○見て・触れて・体験できる！

問題発見講座では、現地研修やフィールドワークなど、実際に見たり・触れたり・体験できる講座を取り入れています。また、犬上郡・愛知郡の4町への現地研修を取り入れ、「彦根とのつながり」を感じられるようにしています。25年度は、「先人の知恵・生き方に学ぶ～井伊大老ゆかりの酒蔵を訪ねて～」と題し、豊郷町の酒蔵「岡村本家」と「豊郷小学校旧校舎群」を、26年度は、「芹川の流れをさかのぼる」と題し、多賀町の「河内の風穴」を、27年度は、「伝統の織りに触れる～高宮布から近江上布へ～」と題し、愛荘町の「近江上布伝統産業会館」を訪れました。



実験・実習講座では、2年ごとに彦根市内の県立高校に順番に担当いただいています。27年度は彦根東高等学校に4講座を開設していただきました。



実験・実習講座第3講では、「彦根の歴史を探る」のテーマのもと、校地内にある「史料館」と「御座所」を見学しました。「史料館」には、彦根藩校・彦根学校・彦根伝習学校・彦根初等師範学校・彦根公立中学校・滋賀県尋常中学校・彦根中学校時代の蔵書があり、「御座所」では1917年の秋季陸軍特別大演習にて大正

天皇が滞在された施設を見学しました。また、第4講「地球と太陽のふしぎ・ふしぎ」では、偏光板を使った実験や、顕微鏡での石の観察、太陽観測装置での太陽黒点の観察、天体望遠鏡での観察、簡易分光器を製作し太陽光のスペクトルの観察をしました。見て触れて確かめてみることで、肌で感じることでできる良い経験となりました。



滋賀県立大学での理論学習講座第2講では、「食べて健康！～あなたにあった食事とは？～」のテーマのもと、まず「健康」の損失を数値で表した『DALYs』という指標から、健康の損失の要因として食事に起因することが多いことを学びました。その後、体組成計で健康管理の関係因子とな

る内臓脂肪や基礎代謝を計測し、また、実物大のフードモデルを用いて、前日の夕食の栄養価について自動計算し、講師から改善すべき点についてアドバイスをいただきました。自分にあった量や食べ方について分かりやすく、直感的に理解することができました。



#### ○カレッジだけの貴重な体験！

普段では、なかなかできないことができるのも、彦根校の特色です。貴重な体験は、学ぶ楽しさを知り、学びを深めることにつながります。

問題発見講座第5講「彦根城の謎を解明」では、彦根市教育委員会文化財課学芸員の方から、防御や治山の視点を交え、彦根城の特徴について詳しく説明いただきました。普段見られない石垣を特別に間近で見せていただき、身近な彦根城を新たな視点で学ぶことができました。



実験・実習講座第1講「英語を楽しもう」では、2016年に創立140周年を迎える彦根東高等学校の特別教室棟にて講座を行いました。特別教室棟は、県立学校では約50年ぶりの木造校舎として、平成25年3月に竣工されました。

A L Tの先生の英語での講座でしたが、英語部の生徒が各グループに入り、受講生をフォローしてくれました。分からない単語や表現を聞いたり、英語で会話をしたりするなど、生徒と交流することができました。講座が始まる前は英語に苦手意識があり、不安な気持ちを話される方もいらっしゃいましたが、時間が進むにつれて、楽しく学習する姿が見られました。



問題発見講座第1講「直弼の茶と心」では、直弼の生い立ちや茶の湯を極めようと思ひ立ち、完成を追い求めた直弼の心について学びました。彦根城博物館木造棟の和室でお茶をいただき、日常とはまた違った趣のある風情豊かなひと時となりました。

### 3. 受講者について

受講希望者は2年前までは20名程度を推移していましたが、26年度は35名、27年度は51名と増加しました。これは先述のとおり、受講生のニーズや彦根校の特色をより出すために、テーマをリニューアルし、歴史・文化・健康と学習分野を広げたことが要因として考えられます。

また、受講生へのアンケートでは、半数近くの方が民生委員児童委員、健康推進員やボランティアガイド、スクールガードなどの地域活動をされていることがわかりました。受講動機については、内容に関心をもたれたことはもちろん、仕事や地域活動に生かすことができると思ったからと答えた方が10名ほどおられ、普段から地域の活動をされており、さらに知識を深めたり、新たな仲間を作ったり、学習意欲の高い人が多く受講されていることがわかります。

最後に26年度修了生の感想の一部を紹介します。

○若い頃華道を習い、いつか茶道も習いたいと思いつつ、結婚・子育て等でその時間がありませんでしたが、伝統ある茶道に触れ、ゆとりある時を過ごし、心を深めることができました。彦根城博物館木造棟の和室で学ぶことができ、素晴らしい経験になりました。

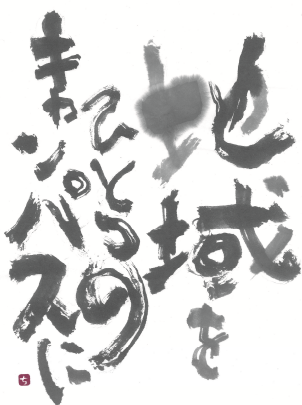
(理論学習講座第1講 直弼の「茶と心」)

○今一番大事なことは、湖・里・山のことを知り、見直さなければと思います。壊されていく、変えていく自然の環境をいかに食い止め、再生していけるか考える手助けになりました。地元学・絵屏風の学習は非常に参考になりました。

(理論学習講座第4講 湖・里・山の“いのちの守(も)り”)

○河内の風穴の探索では、何十年ぶりに入る風穴で、いろいろと知らなかった事を教えていただいた。特に印象に残ったのは、地形は何億年かけて変化するが、私たちが生きている間にはほとんど変化はない。しかし、人間が手を加えるとすぐに変わってしまう。このことは深く受け止めておくべきと思いました。

(問題発見講座第2講 芹川の流れをさかのぼる～河内の風穴の探索～)



○色彩福祉（カラーセラピー）の講座では、高齢化の進んだ現代において、高齢者をターゲットにした商品開発が進展していることを知りました。人間の五感（見る＝目 聞く＝耳 かぐ＝鼻 味わう＝舌 触れる＝皮膚）の大切さを痛切に感じ、特に視覚について景色、看板、住宅、車、電車等観察していけたらと思いました。

(実験・実習講座第3講 色彩福祉（カラーセラピー）体験)



# 淡海生涯カレッジ長浜校の実践

長浜校実行委員会

## 1. テーマについて

本校は、平成9年の開講以来、身近な環境問題をテーマに講座を実施してきました。平成15年に長浜バイオ大学が開校してからは、理論学習講座を長浜バイオ大学で担当していただいております、環境をテーマにしてより充実した内容により講座が実施できています。平成27年度は、「身近な問題から見つめ直そう～バイオテクノロジーから自然環境まで～」をテーマに下記の18講座を実施しました。

### (1) 問題発見講座

会場：第1回 長浜バイオ大学、第2回 黒壁スクエア、第3回 菅浦、第4回 河内風穴、第5回 竹生島

回	月日	時間	テーマ	講師
1	6月13日(土)	9:00~12:30	・開講式 ・講演「我々の生活とバイオテクノロジー」	長浜バイオ大学 教授 蔡晃植
2	6月20日(土)	10:00~12:00	【企業見学】 黒壁スクエア散策とガラス体験教室	株黒壁 伊吹 健
3	6月27日(土)	12:15~16:45	【現地研修】 国の重要文化的景観・菅浦の魅力に迫る	菅浦惣村の会 会長 島田 均
4	7月4日(土)	12:30~17:00	【フィールドワーク】県指定天然記念物・鍾乳洞『河内風穴』探検	多賀町立博物館 主任学芸員 阿部勇治
5	7月25日(土)	12:00~16:00	【フィールドワーク】湖北の魅力再発見!!!琵琶湖に浮かぶ神秘的島“竹生島”散策	宝厳寺 管主 峰 覚雄

※第2回:材料代(1,000円)、第3回:景観保全協力代(1,000円)、第4回:入場料500円、第5回:渡船代(1,000円)は自己負担となります。

※第4、5回:天候により予定が変更となる場合があります。

### (2) 実験・実習講座

会場：「第6回」長浜市役所

「第7～11回」市内の高校及びバイオ大学(各担当講師の方の高校及びバイオ大学が会場となります。)

回	月日	時間	テーマ	講師
6	8月8日(土)	13:30~15:30	レンズの実験と眼の錯覚の話	伊香高等学校 教諭 平塚隆三
7	8月22日(土)	9:30~11:30	身の周りの物理現象	長浜北高等学校 教諭 福田康二
8	8月29日(土)	8:30~16:30 ※内1時間半を予定	夜空への想い(プラネタリウム)	長浜北星高等学校 教諭 西川 聡
9	9月5日(土)	13:30~15:30	観察・仮説・実験～ワークショップで体験する科学的探究～	虎姫高等学校 教諭 松宮敬広
10	9月12日(土)	12:30~17:00	DNA鑑定でお酒に強いかわ調べよう!	長浜バイオ大学 准教授 佐々木真一
11	9月26日(土)	13:30~15:30	豆腐の製造	長浜農業高等学校 教諭 大橋拓朗

### (3) 理論学習講座 土曜特設講座

※このカレッジのために長浜バイオ大学に特設される講義です。

会場：「第12～18回」長浜バイオ大学

NO	月日	時間	テーマ	講師
12	10月10日(土)	13:30~15:30	骨は環境に応じる	長浜バイオ大学 教授 野村慎太郎
13	10月17日(土)	13:30~15:30	魚類を用いた環境問題解決への挑戦	長浜バイオ大学 准教授 池内俊貴
14	11月7日(土)	13:30~15:30	脳梗塞と実験動物	長浜バイオ大学 教授 永井信夫
15	11月14日(土)	13:30~15:30	バイオが生み出す魔法の弾丸：抗体医薬	長浜バイオ大学 教授 西義介
16	11月21日(土)	13:30~15:30	植物の進化の陰に細菌あり	長浜バイオ大学 講師 今村綾
17	11月28日(土)	13:30~15:30	酵素について考える—その歴史から産業利用まで—	長浜バイオ大学 講師 中村卓
18	12月12日(土)	13:30~17:00	・植物の営みを知ろう ・閉講式	長浜バイオ大学 教授 蔡晃植

## 2. 実施体制について

大学等の高等教育機関や高等学校など様々な学習機会提供機関との連携により実行委員会を組織しています。

実行委員会では、問題に気づき（問題発見講座：現地研修等を実施しながら、興味や関心を抱き問題のありかを探る）、自分の目で確かめ（実験実習講座：市内高等学校等において調査、観察、実験などを通して、より体系的に問題を把握する）、そして理論を深める（理論学習講座：長浜バイオ大学にて最先端科学を分かりやすく学ぶ）広域的で体系的な学習プログラムの提供に努めています。地域にある公民館や高等学校、公共施設等での見学・実習の学習から、大学での講義まで段階的に学習することにより、高度で専門的な学習を行うことができます。また、班ごとに受付や司会、感想文の記入などの役割分担を決め、講座の運営にあたっていただくことにより、受講生同士の繋がりを深めることができ、主体性をもって本講座を受講することができるようにしています。

## 3. 受講者について

平成21年度以降、申込者が定員を上回り、平成25年度以降には抽選を実施してきております。平成27年度には、過去最高となる60名の申し込みがあり、特に新規の申込者のみで定員を超えてしまい、淡海生涯カレッジに対する関心の高さがうかがえました。

### ・申込者数及び受講者数一覧

開催年度	申込者数	受講者数
平成9年度	26名	26名
平成10年度	21名	21名
平成11年度	29名	29名
平成12年度	13名	13名
平成13年度	19名	19名
平成14年度	24名	24名
平成15年度	30名	30名
平成16年度	30名	31名
平成17年度	31名	34名
平成18年度	34名	34名
平成19年度	23名	23名
平成20年度	22名	22名
平成21年度	32名	32名
平成22年度	43名	43名
平成23年度	38名	38名
平成24年度	37名	37名
平成25年度	50名	35名
平成26年度	44名	35名
平成27年度	60名	34名



☆沖島でのフィールドワーク



☆長浜水道企業団へ企業見学

## (受講生の声)



### ① 長浜校の魅力、また受けてよかったと思うこと

- ・最先端の講義が聴けて非常によかった
- ・日頃の疑問が少し解決できた
- ・地元のバイオ大学で環境に密着したサイエンスを勉強できてよかった
- ・レベルが高く理解が難しい部分もあったが有意義だった
- ・研究内容をわかりやすく講義いただきありがたかった
- ・高校は独自の身近な内容で実験できてよかった
- ・バイオ大学へ初めて足を踏み入れることができ、施設そのものへ入れたことにまず感動した
- ・問題発見講座で広範囲な所へ行けたことがよかった
- ・人との新たな繋がりができ交流がもてて楽しかった
- ・カリキュラムが広範囲にわたっており飽きのこない内容であった
- ・山に行ったり高校で学んだり、外で学ぶ機会が持てて良かった
- ・人との出会い・ふれあいができてよかった
- ・内容も盛りだくさんだったが、学び合える機会が多く嬉しかった
- ・難解なことをやさしく教えてもらえた
- ・大学の先生がわかりやすく、噛み砕いて話してくださるのが助かりました
- ・高校の先生も準備をよくしてくださってありがたかった
- ・新しい知識が増えた事、多くの学びの友が増えたこと
- ・最初は講座の内容についていけるか心配だったが、分かり易く説明していただけてよかった
- ・前年の反省点を生かされた運営をされていて良かった
- ・卒業校だけでなくいろんな高校に行けて新鮮だった

### ② 改善すべきことや提案

- ・質問の時間をもう少し長く取って欲しい
- ・班メンバーを途中で入れ替えてはどうか
- ・受講内容に意見が言えるような機会があればよい
- ・講座途中で交流会がもてたら良かった
- ・企画に口を出していけるオブザーバーシステムを取り入れたらどうか
- ・各生涯カレッジの横のつながり（他校との繋がり）をもつ機会があれば
- ・6カ月では短い。もっと長期受講したい
- ・先に授業の資料をいただいて予習したい
- ・申込者全員参加させてほしい
- ・文化、歴史等勉強も取り入れてもらいたい

#### **4. 今後の展開について**

開講当時、当市では環境基本条例の策定中であり、また市民の環境に対する関心が高く、環境学習や市民団体の環境活動が盛んに行なわれていたことから、本講座の開講にあたり、市民の関心、行政の施策、大学の役割を鑑み、「環境」をテーマに取り組むこととなり、それが現在に続いています。

今後は、この学びを実践につなげていただけるように、環境問題に対する積極的な取り組みだけではなく、地域課題の解決に向けた活動やボランティア活動の実践にも結び付けていただけるように、内容を精査しながら、参加者がより主体的に学べる講座となるようにしていく必要があります。

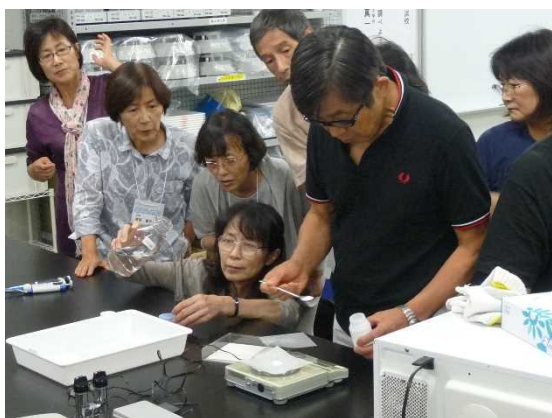
#### **5. これまでの軌跡**



☆権座・水郷を守り育てる会



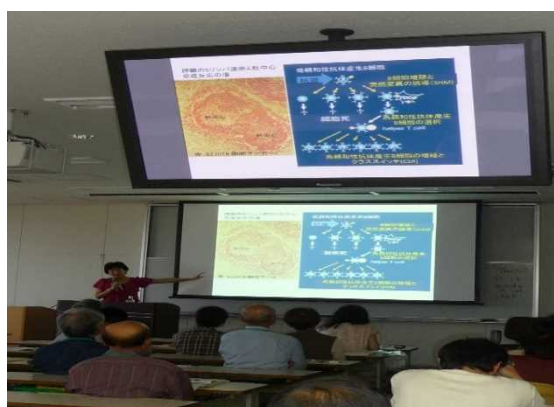
☆余呉のブナ林を訪ねて



☆バイオ大学にて DNA 鑑定



☆高等学校での実験実習



☆バイオ大学で学ぶ最先端科学



☆夜空への想い～プラネタリウム～

# 淡海生涯カレッジ湖南校の実践

湖南校実行委員会

## 1. テーマについて

平成 18 年度、大学等の高等教育機関や高等学校、まちづくりセンター等さらには県・市町の諸施設における様々な学習機会提供機関により、高度な学習要求に応える体系的、専門的な学習機会を提供するとともに、学習機会を生かした社会参加を支援するために淡海生涯カレッジ湖南校の講座が開設されました。

このカレッジは、地域や社会の課題についての知識を習得し、それを基礎としながら、一人ひとりが主体的に関わっていくための技能や判断力を身につけ、地域活動（コミュニティ活動）やボランティア活動の実践に結びつけていく地域学習という学習目標のもと実施してきました。

### （1）テーマの変遷について

年度	テーマ
H18 年度	住みよい暮らしと地域社会をめざして
H19 年度	住みよい暮らしと地域社会をめざして
H20 年度	住みよい暮らしと豊かな環境づくり
H21 年度	住みよい暮らしと豊かな環境づくり
H22 年度	【健康でイキイキ 癒し生活】～健康で生き抜くための『技』を知ろう
H23 年度	【健康でイキイキ 癒し生活】～健康で生き抜くための『技』を知ろう
H24 年度	地域で学ぶ健やか生活～暮らしを見直してみよう～
H25 年度	地域で学ぶ健やか生活～暮らしを見直してみよう～
H26 年度	学びから生きがいへ～住みよい暮らし・地域づくりをめざして～

### （2）学習内容について

淡海生涯カレッジでは、市内社会教育施設、高等学校、そして大学等の地域の生涯学習機関がそれぞれの特色を出した講座を開設してきました。これらの講座をすべて受講することで身近な暮らしを取り巻く健康や社会、文化などについて学び、地域活動（コミュニティ活動）やボランティア活動の実践に結びつけていく学習とし、経験と知識が身につけられるよう計画されてきました。

学習内容は、大きく分けて、【問題発見講座】、【実験・実習講座】、【理論学習講座】の3つを設けてきました。

【問題発見講座】は、講義や実習等を通じて住みよい暮らしと地域社会に関する幅広い知識を身につけるとともに、受講者一人ひとりが自分なりに問題意識を高めていくことを重視した講座でした。

【実験・実習講座】は、身近な暮らしについての体験を重視した講座でした。私たちの身近な生活を取り巻くさまざまな環境について実際に見て、触れて、体験することで受講者の皆さんは、先に学習した問題発見講座での問題意識をより明確にすることができました。

【理論学習講座】は、暮らしと地域社会をつなぐ取り組みにおいて十分な成果をあげるためには、知識と経験の両方が結びつくことが必要ということから設けられてきました。この講座では、これまでの学習の総まとめとして、講義を通じて深く掘り下げ、これから私たちは健全な暮らしを支えるため、どのように地域社会とどう関わっていくべきなのかを考えていきました。

地域の中にあるまちづくりセンターや高等学校、公共施設等での見学・実習の学習から、大学での講義まで段階的に学習することにより、高度で専門的な学習を行うことや、問題に気づき（問題発見講座）、自分の目で確かめ（実験・実習講座）、そして理論的に深める（理論学習講座）学習の後、その成果を生かした社会参加への支援等を目的とした、地域や湖南校の特性を生かした講座内容を行いました。



## 2. 実施体制について

### ・実行委員会について

実行委員会は、委員長が招集し、企画運営にあたりました。実行委員会は、①立命館大学教職員、②実験・実習講座の実施を行う高等学校教職員、③問題発見講座講師、④滋賀県教育委員会事務局職員、⑤湖南市教育委員会事務局職員、⑥運営委員、⑦校長が認めた者から成り、校長が任期を定めて実行委員の委嘱を行ってきました。

### ・各講座群の実施機関について

【問題発見講座】…市内外の公共団体、福祉施設、教育施設、民間企業・団体等

【実験・実習講座】…甲西高等学校、石部高等学校、国際情報高等学校、甲南高等学校、甲南高等養護学校、信楽高等学校、三雲養護学校、水口高等学校

【理論学習講座】…立命館大学BKC

### ・特色ある取組について

学習運営は運営委員が主体となり、事務局が補佐していました。運営委員は、各講座で受講生の受付をしたり、会場への案内をしたり、初めて参加されるかたの仲間づくりのお手伝いをして、受講生のかたが講座を受講しやすいように細やかな配慮をしてくださっていました。

各講座終了後、毎回、講座の感想等を書いていただく講座日誌を受講生のかたに記入していただいていたました。その日誌をファイリングし、これまでの講座を振り返って確認していただき、今後の参考になるように受付で閲覧できるようにしていました。

定期的にアンケート調査も実施し、受講生の皆さんにとってよりよい講座になるよう工夫してきました。

また、平成25年度からは、「おためしカレッジ」を設けました。この「おためしカレッジ」とは、「どんな雰囲気で行っているのか様子を見てみたい。」「連続での参加は難しい」といったかた向けに設けられたものでした。数名の参加者が気軽に参加してくださいました。



### 3. 受講者について（最終年度アンケート結果より）

平成26年度の受講生を対象にアンケート調査を実施しました。ここでは、①講座情報の入手方法、②受講動機、③経験の活かし方、④全体の感想について、ご紹介します。

①講座情報の入手方法	回答数
広報	11
新聞	0
ポスター	2
パンフレット	0
ホームページ	8
口コミ	4
その他	3

(複数回答可)

(知人から 2)

(電話で依頼して、FAX を送ってもらった 1)

②受講動機	回答数
テーマに興味	15
場所が身近	5
講師がよい	6
多様な場所での学習	17
学習成果が生かせる	5
受講料が手頃	10
過去に受講してよかった	12

③経験の活かし方	回答数
自らの生活に生かす	19
周りの人たちへ普及・啓発	10
まちづくり	8
特になし	1
その他	1

④全体の感想	回答数
大変よかった	12
よかった	11
どちらともいえない	1

### 4. 受講者の声（アンケート結果より）

- ・受講内容が良かった。地域を良くしたい！
- ・充実した講師陣によるバラエティーに富んだ学習内容だった。
- ・いろいろなお話を聞いて、目からうろこの場面も多く、楽しかった。
- ・お昼から用事のあることも多かったので時間を守ってほしかった。
- ・地域で多くの知識を学べるし、友達もでき楽しく学習ができる。
- ・幅広いジャンルにわたって効率的なプログラムが大変良かった。
- ・講座期間も適当で、学習テーマもいろんな視点で取り上げられ楽しく、興味深く受講できた。
- ・実習講座で高校生と共に学習する。核家族により、子どもたちと生活することがないので良い。
- ・受講者OBの活動事例、サークルなどの紹介をしてほしい。

(以上)



# 淡海生涯カレッジ大津校の思い出

大津校修了生 石川 修

淡海生涯カレッジ開設20周年目を迎えたこの機会に、このような伝統ある淡海生涯カレッジで学習できたことに感謝し、修了生の一人として、大津校の思い出や自分にとってのこの淡海生涯カレッジの意義についての拙文を記してみようと思います。

私は、大津校の平成24～26年度の講座を3年連続して受講する機会に恵まれました。毎回の講座の楽しさとその時の感動を今も鮮明に記憶しています。まず、問題発見講座ですが、平成24年度には、近江の原風景を基にした講演、酒造見学と和菓子作りやお茶席の体験、堅田の歴史探訪、仰木の里山散策と成安造形大学でのワークショップ、高島市針江地区でのかばた見学と各種体験学習がありました。いずれも、このカレッジを受講しなければ経験できないような貴重な体験と新しい発見ばかりでした。平成25年度には、山間地農業と食文化、比良の赤シソジュース、琵琶湖の魚と水産業についての講演の他、ローザンベリー多和田での見学と体験がありました。後日、受講生仲間のグループで、山間地農業と食文化について講演された西澤氏が営むレストランへ行き、朽木の山菜料理を味わって交流を深めたことも楽しい思い出です。平成26年度には、トチノキと森についての講演、吾妻川付近での草木染体験、古紙再生工場見学、沖島での漁業や地域おこしについての見聞がありました。私は、古紙再生工場見学を契機として、企業の環境経営について学びたいと思い、その後、環境にやさしい事業活動を紹介する選択講座を受講しました。

実験・実習講座については、諸般の事情で一部出席できない日もありましたが、堅田高校での音楽を聴きながら団扇に描く芸術表現実習、堅田探訪、郷土料理体験、落語や詩語り等を通して言葉の芸術に触れる講座、そして膳所高校での周辺歴史散歩、日本建築鑑賞の現地解説、身近な水の化学的分析、葦笛づくり、ヨシノボリ類の顕微鏡観察、牛乳パックや反古紙での書作品作成の講座に出席できました。当時の実験・実習講座の資料や作品を今も保管していますが、それを見るたびに、昔の年齢に戻った気持ちで楽しく受講したことが思い出されます。いずれも、自然との共生や暮らしについて考えさせられる充実した講座内容で、先生方の大変な事前準備と熱心な説明には、感謝の念で一杯です。

理論学習講座は、滋賀大学での土曜特設講座を受講しました。私は、琵琶湖や環境についての理論的な学習経験がなかったので、毎回興味深く受講しました。講義では、琵琶湖や環境についての個々の問題点にも触れ、その解決策について自分なりに考えてみたりしたこともありました。熱心に質問される受講生もいて、環境への関心の高さを感じました。また、環境学習や生涯学習についての講義もあり、学習成果の活用について考える機会ともなりました。豊かな自然を次世代に引き継ぐためにも、淡海生涯カレッジでの学習成果を周囲の人や若い人たちに伝えることができる活動をしていきたいものです。諸般の事情でグループ学習に参加できなかったことは残念です。

私は、琵琶湖がある滋賀県に転入してから随分永くなりますが、大阪への遠距離通勤をしていたこともあり、平成24年に43年間のサラリーマン生活に区切りをつけた時には、地域のことがわからず、知った人もいないという状況でした。そして、退職後の人生についていろいろ考えていたときに、偶然、淡海生涯カレッジ大津校受講の機会に恵まれました。

た。従って、この淡海生涯カレッジは、私にとって退職後の最初の貴重な経験であり、次の3つの点で、退職後の生活を有意義なものにする源になったと思っています。

第1に、環境学習を通して、地域社会を随分と理解することができたと思います。平成24年度には、問題発見講座が堅田公民館で、実験・実習講座が堅田高校で行われ、いずれも私が住んでいるところの近くでしたが、私にとっては全てが初めての見聞でした。環境先進県である滋賀県では、琵琶湖環境の再生を目指して「マザーレイク21計画」が策定され、その実現に向けた多くの取組が進められていることも知りました。また、この淡海生涯カレッジでは、講義のみならず、見学や実習などの学習形態による学習機会がありましたので、実際に見聞しながら、地域を理解することができました。そして、継続的・段階的に学習していくシステムであるため、長時間でしたが、最後まで興味をもって受講することができました。

第2に、この淡海生涯カレッジ受講により、いろいろな職歴や年代の人たちとの交流もあって、貴重な経験をすることができました。受講を重ねるにつれて顔見知りも増え、雑談をする機会もできましたが、勉強意欲旺盛で主体的な活動をされている方が多く、随分と刺激になりました。淡海生涯カレッジ修了後の社会参加について模索中のところ、修了生仲間から誘いを受けて活動に参加したこともありました。例えば、こだわり滋賀ネットワークの会員として、環境こだわり農業の生産者と消費者をつなぐ活動は、現在も続けていますが、修了生仲間からの誘いが動機です。社会参加の経験がなかった私にとっては、修了生仲間との交流は大変貴重なものです。

第3に、この淡海生涯カレッジでは環境について学習しましたが、環境学習を含む生涯学習や地域活動について考える契機ともなりました。私は、地域社会への帰属意識が希薄であったことを反省するとともに、社会との関わりを通して自分の生き方や考え方を向上させていくことが重要なのではないかと考えるようになりました。そして、生涯学習はスポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動等の中でも行われる旨の記述を見たことがあります。今後、環境と併せて他の地域活動にも発展させていくことが自分の課題の一つであると思っています。

このように、淡海生涯カレッジでの学習は自分の生き方や考え方に変化をもたらしたと思っていますが、更に、学習の成果を今後の生活や活動にも生かしていければ、と考えています。このようなすばらしい学習機会を提供していただいた教育委員会や実施機関の方々に心より感謝申し上げます。

(平成27年8月記)

## 「淡海生涯カレッジ」を受講した思い出

大津校修了生 戸田 博通

私は8年前、大阪から大津市に移り住んできました。そして、滋賀の素晴らしい自然環境と琵琶湖の美しい景観を前にして、環境問題や大津の歴史と伝統文化などを学びたいと思っておりましてところ、偶然に、大津市役所で、「淡海生涯カレッジ大津校」（環境人になろう）の案内書を見て、是非受講したいと思い、妻と申し込んだ次第です。

私は、この淡海生涯カレッジが、公民館、高校、そして大学の三者が連携して、私たち一般人に学習の機会を与えられると云うのは、とても素晴らしい有意義なことだと思いました。

公民館での様々な興味深い講座の中で、大津市無形文化財指定の「草木染及び組紐」が思い出されます。作業工房を訪れ、140年以上も守り続けられた歴史的な伝統工芸を見学して、このような貴重なものがこれからもずっと廃れることがないように、願わずにはいられませんでした。

次の県立高校では、どの高校でも講義のために、先生方がその準備に大変努力され、私たちはその熱意ある講義を受けることができました。特に、実験・実習講座で、顕微鏡を覗いてヨシノボリの分類をしたこと、また古代の琵琶湖と現在の琵琶湖の藻類を顕微鏡で比較、観察したこと等、興味深く学んだことを思い出します。

滋賀大学では、毎回の講義を通して琵琶湖の自然環境をはじめ、滋賀の食育文化や、自然環境を維持するためのコスト等について、いろいろと奥深く学びました。「知らない事を知る」と云う有意義な時間を過ごすことができました。この頃には、顔なじみも増えてお友だちができ、そしてまたグループ活動では、湖北の方まで出かけて、滋賀の『おこない』について調査し、発表したことも大変良い思い出です。

淡海生涯カレッジで学んだ知識と経験は、私にとって人生の励みとなり、活動のきっかけとなりました。現在、琵琶湖博物館はしかけ「里山の会」、環境フォーラム「菜の花の会」龍谷の森「里山保全の会」等で自分のできる範囲内で活動しています。

## 淡海生涯カレッジにまなぶ

草津校修了生 篠部 治男

私は65歳で定年を迎え、人生の節目の一つに「生涯学習」の大切さを考える良い機会にと、“学ぶ つながる 活かす”の淡海生涯カレッジ草津校に2013～14年の2カ年を参加させてもらいました。

各年とも、自然・環境・文化・生活・健康・食等について、関心、具体的な学習テーマで、3回の問題発見講座からスタートし、市内の公立高等学校現場での実験や実習を中心な手法での臨地学習講座は、理解しやすく、実に興味深く、楽しい体験、体感の時間帯でした。特に、当該校の先生や生徒の皆さんの協力、応援を得ての一緒に学習の場は、現行の教育の姿を少し垣間見ることが出来て、大変貴重な思い出になりました。

また、10回の滋賀大学での特設講座は、体系的に基本事項から専門的な学習プログラムが用意された理論学習の場では、むずかしい課題も残すものもあったが、実に有益で参考になる講義ばかりで、久方ぶりに学生気分にならせてもらい、若々しい気分で最高の体験が出来ました。大津校の仲間たちとの自主グループでの話し合い、議論交流の時間は、大変楽しい意見交換ができ、印象に残った一コマでした。

難しく考えずに、これからも少しでも役立つ様なボランティア活動として、自主的に実践活動へ参加して、一市民として楽しい暮らし方に努めていきたいと考えています。

最後に、企画、運営前面にわたり、大変お世話を頂きました関係者、事務局の皆様の方々、そして同行させて頂いた参加者の仲間の皆様、終始楽しく、有意義に貴重な体験ができましたことに、心から感謝とお礼を申し上げます。

## 淡海生涯カレッジに参加して

草津校修了生 高岡 継子

生涯勉強と言われ何か学びたいなと思った時に、平成23年度初めて受講させて頂き、続けて24年度も受講しましたが、地域のお役を頂き、なかなか出席できなく修了することが無理でした。

平成25年度はやっと役も終わり、今年度は頑張ったとの思いで受講しました。

自分の思いがかなったのか、各学校での学習も楽しく、思い出の残る作品もあります。

またグループ学習では、テーマ「滋賀の風土と伝統を守るためには」では、大津校の熱心な方がおられ、私の町の祭りにもグループの皆さんで見学に来てくださって、発表する機会ができ、思い出が残る学習会でした。

また、滋賀大学での講義は少し難しいところもありましたが、大学の講義はこのようなものかと良い勉強にもなりました。

初めて修了証も頂き、私にとっては意義のある楽しい勉強をさせて頂きました。

何とか続けてと思い、26年度も受講申込をして頑張っていたのですが、途中けがをしてしまい残念でした。

☆ 俺が 俺がの が をすてて  
お蔭 お蔭の げ で暮らせ ☆

- ・平成20年度の淡海生涯カレッジ湖南校に入学を許可されカレッジ生徒スタートをしました。  
テーマは『住みよい暮らしと豊かな環境づくり』  
～私たちの身近な暮らしを取り巻く健康の社会、文化などについて学び、  
住みよい暮らしと豊かな環境づくりについて考えてみませんか～

定年退職をしレカディア大学で2年間お世話になり、授業で総合型地域スポーツクラブの事を学び、我が湖南省に無いので色んな方々の協力を頂き2年間の設立準備期間を経てついに湖南省ちよいスポクラブをお蔭さまで立ち上げる事ができました。

- ・石部高等学校でのAEDの講習会その後、毎年7月に我がちよいスポクラブで開催してます。



- ・甲西高等学校での自分の体力を知ろう後、同じく年に2回体力測定をしています。  
前回との比較表作成し各自に配布してます。



- ・県立国際情報高等学校でのソーラー時計を作ってみようの作品、今でも大切に使用してます。  
学校の場所も知りましたし、初めて中に入りました。
- ・立命館大学での学食での食事タイム楽しみました。  
世界報道写真展毎年見学させていただいています。
- ・次年度も是非参加させて欲しいとアンケートに記入

☆ 明日ありと思う心の仇桜  
夜半（よわ）に嵐のふかぬものは。 ☆

- ・平成21年度 淡海生涯カレッジ 湖南校に入学許可  
20年度は3回欠席をしましたが、今年は皆出席を目指す。
- ・薬膳料理をつくろう  
一番苦手な分野でどうなるか心配しましたが、皆さんの協力で楽しい一時を過ごせ美味しく頂きました。甲南高等学校の先生方有難うございました。



- ・ 信楽高等学校での皮細工今も大事に飾ってます。
- ・ フラワーアレンジメント心配しましたが出来て良かったです。初めての体験でした。自治会等で企画し皆さんに喜んでいただいています。

- ・ 立命館大学での講座  
ここで素敵な出会いができました。  
伊坂先生。  
一 十 百 千 万 で健康  
藤田聡先生  
バンド(レジスタンス)運動

伊坂先生より習う

一	一日1回自分をほめる。
十	一日10回腹から笑う。
百	一日100回深呼吸
千	一日1000文字書く。
万	一日10000歩

湖南省が発行している ルネッサンス2010 春号に開催結果が掲載されました。淡海生涯カレッジで学んだ事は、すぐさまちよいスポクラブで実践しています。

☆ して見せて 言ってみせて  
やらせてみせて ほめてやるのが 人を育てるコツ。☆

- ・ 平成22年度 淡海生涯カレッジ 湖南校に入学許可 平成23年～平成26年参加トータル7年間の入学をさせて頂き、その間1年はお手伝い役で参加。テーマは『健康で生き生き癒し生活』  
～健康で生き抜くための『技』を知ろう～



- ・ P/Cでの講座。色々教えて頂いてその後のP/C使用に大変役立ちました。
- ・ 収穫に参加。甲南高校の生徒さんが管理して頂き有難う。こんな立派な大根はじめてです。楽しかったです。
- ・ 寄せ植え体験。作品を頂き玄関先に飾り楽しませて頂きました。
- ・ 湖南省ちよいスポクラブと立命館大学との連携  
大学での授業後にアンケート調査で体力測定参加協力募集でOKを出しておく。スポーツ健康科学部の調査研究に少しでもお役に立てばの考えで参加協力をスタート  
マシントレーニングに参加週3回8時～9時まで12週間  
その間 食事調査や歩行・バランス測定にも参加  
空き時間にセラバンド運動にも体験参加  
1回も休み無で参加ができました。  
先生方・生徒さん大学院生さんと大変親しくなりクラブ運営等到大変助かっています。



- 藤田先生に講座を開いて頂き、修了証を発行して頂き各地域でバンド教室を開いています。
- ニュースポーツも取り入れほうぼうから指導依頼が来て参加しています。
- カレッジで習った事がすぐに役立ち大変助かっています。
- ストックウオーキング・パラシュットで一つの輪



• 湖南省スポーツ推進計画  
 ずっとここに  
 暮らしたい！  
 スポーツで  
 ”つなぐ”  
 きらめき湖南  
 平成26年(2014年)12月  
 冊子発行



- この推進計画作成にも参加
- カレッジで習った事を実践してます。



- ジュニア ゴルフ・ボウリング教室開催
- 朝の挨拶運動
- 防災訓練 ダンボールハウス作成
- 宿題教室開校 夏休み・冬休み
- 新春ウオーキング 毎年1/3PM開催



- ペルー料理作成体験
- 下田焼き作成
- カレンダー作成 甲西高校書道部



- 平成23年(2011年)2月16日  
平成22年度滋賀県社会教育部  
シンポジウム  
『社会教育を通じた人づくり』  
パネラーとして参加  
分科会  
学びを通じた人づくり  
パワーポイントで発表



色んな方との出会いや知らなかった事や場所。体験や習った事をすぐに実践できる場所。少しでも地域でお役立て出来ればの思いで、カレッジに参加しています。参加するからには1日も休まず受講を目指しています。



- 平成27年 甲賀校  
8年目の参加  
『郷土の知恵と技を学ぶ』  
～新しい自分づくりとまちづくり～



# 老いを跳ね飛ばす淡海生涯カレッジ校

湖南校修了生 山形 範子

私が「淡海生涯カレッジ校」を知ったのは、13年前にレイカディア大学へ入ってからです。一年、二年生の二百名以上の大教室で、ホームページ十名募集。ペとパの勘違いで、パソコンを教えてもらえる～。十名の言葉に身体はバネのようにはじけ、後ろからそっと抜け出し十名の中へ入れました。一回目の講義の時、男性達はパソコンをシャカシャカ打っているの、「何故パソコンが出来るのに習うのですか?」「ホームページは初めてなので・・・」「エッ!ホームページって・・・?」宇宙語のような言葉で、チンプンカンプン、しまった～(>\_<) それからが大変、一カ月前に買ったパソコンを打つのに本を見ながらだと中々出来ないの、簡単な童謡を歌いながら、少しずつ打てるように。やっとHPクラブの先輩のHPを見ると、生涯学習のマスコットで、マナビイの可愛いミツバチを見たのがつい昨日の事のように思い出しました。そして昨年レイカディア大学の「びわこシニアネット」のホームページの更新当番で、集めたパンフレットに、淡海生涯カレッジ湖南校があり、アップしてから申し込みました。正直いって難しかったらどうしよう、不安が一杯でした。受講の手引を頂き、後ろを見たらマスコットのマナビイが、13年ぶりに見て、不安が飛びました。

初めの三回は石部まちづくりセンターで。

一回目は、地域おこし協力隊で「湖南省はな～んにもないのが特徴のまちです」から始まったが、どっこい、魅力的な所を探し、情報新聞を作り地域に発信し、テレビ・新聞でも紹介されたとか。若い力って素晴らしいと感じました。

二回目は「男も女も輝いて生きる」の講義で、かきくけこ。かは「変える」、きは「強調」、くは「工夫」、けは「見識」、こは「行動」で、男も女も考え次第で、老後を生き活きと乗り越える。

三回目は「朝ご飯はたべてますか」で、朝食の大切さで、活動エネルギー、脳のエネルギーでかかせないし、身体に良いレシピをプリントしてくれたので作りました。四回目は「共楽茶房」毎日近くを通っているのに知りませんでした。「地域で共に暮らし共に働くを応援するNPO活動」の、講義をしてくれた方は知っている方でした。小さな石部に地域、高齢者、障がい者グループの事業がある事は知っていたが、六つもあるとは知りませんでした。

次は高校で講義です。

甲西高校の書道で、世界に一つのカレンダー作り。好きな字を書き、最後に一人々に着いた書道部の高校生から好きな字を言うとプレゼント、私は自分の名前の「範」を言うとビックリ、何書というのか忘れたが、書き順がシツチャカメツチャ、だが字には不思議な魅力が。初めて知った書き方でした。

水口高校では、世界の料理を作って食べたり、甲南高校では野菜植え、卒業してから野菜の収穫で沢山頂き嬉しい悲鳴。

立命館大学は七回行きましたが、難しかった講義は省きます。有酸素を取り入れた健康バンドや、介護に頼らない体力づくり、これからの身体の動かし方を習いました。今まで、

地域でも椅子に座って健康バンドをやっていましたが、今回は座ってやるのを教えて頂きました。若い学生を見ると、もっと背筋をちゃんとしないと、良い刺激を受け、嬉しかったのは学食で、学生に交じって安くて美味しいお料理を頂いた事でした。

湖南校で知らなかった方と友達になり、昨年からはじめた水彩画を一緒にやっています。高齢化で、年と共に全速力で、老婆への道へまっしぐら、日が飛ぶのが早すぎる～。あの、それ、あれや、難聴、足腰痛、ショックだったのは、ペットボトルの蓋が開かなく若いお兄さんが開けてくれた事だった。知らず々老いがかぶさり確実に六〇代とは違う体の変化に戸惑いが。淡海生涯学校は、ワクワクドキドキの刺激があり、新鮮な気持ちにさせ、老いを跳ねとばす学校のように、これからも参加させて頂きたいと思います。沢山のシニアの方達も大いに参加し、元気な老後を送りましょう。健康で病気にならず、痴呆症や寝たきりにならないよう、保険証を使わず、これからの長いシニア生活を、元気に過ごしたいと思っております。最後に可愛いマスコットのマナビィのキーホルダーを何処かで売っていませんか。携帯やカバンにつけ、考えたくはないが、いつかは身体が動かなくなった時、マナビィを見て力を頂きたいと思います。遅くなりましたが、二十周年、おめでとうございます。

更新当番でまた、今年の淡海生涯カレッジ甲賀校と草津校をアップし、甲賀校に申し込みをしたが、定員オーバーで抽選に外れ、草津校にまだ余裕があると紹介され、現在は草津校に通っています。天下のパナソニックで、電気以外に、地元の新鮮な野菜を使って、社員食堂に取り入れ、安く美味しく提供していました。一般が食べに行けないのは残念。昼食の、新鮮な野菜を取り入れたお弁当がとっても美味しかったです。湖南農業高校では、七時に集合、ハヤッと思ったが、早い時間にあお花を摘み、染色体験で青から赤に染まり最後はブルーに素敵なショールが出来ました。

# 淡海生涯カレッジオブザーバーの立場から

彦根校受講生・オブザーバー 赤木 和代

## 【1】「思い出」冊子

今手元に平成19年から26年の8冊の淡海生涯カレッジ彦根校の「思い出」冊子があります。それぞれの「思い出」の中には、受講生の眼の輝きや笑顔の写真が目に入ってきて、8年間の重みを感じます。



## 【2】段階的系統的学びのシステム

オブザーバーとなるまでの平成17年から18年は、私もリピーター受講生の1人でした。なぜ、2年続けて受講したのかというと、生涯カレッジの趣旨である「学び」を地域社会に結びつけて活動するという考えに至らなかったのです。もう少し「学ぶ期間」が必要だと思ったのです。1年目は自分のために、2年目は家族のために学ぼうと考えたのです。その後、地域社会への活動に繋げようと思いました。そして、「学びの仲間」とコミュニケーションを取り、共に多くのことを学びたいという欲求に駆られました。

このことについて今考えてみると、生涯カレッジの理念に挙げられている比較的長期的な成人のための学習支援のシステムが、成人受講生の興味・関心に適確なものであったことを示していると言えます。「問題発見講座」→「実験・実習講座」→「理論学習講座」の体系的系統的学習は、段階的な満足を与えるものであったと言えます。よって、リピートしても新たな学習の結びつきを感じられるようなカリキュラムの組み立てが常に計画されるという利点があります。特に彦根校の場合は、オブザーバーも加わり、反省点をふまえて意見交換をしながら、次年度の計画に関わることができません。

## 【3】講座から思うこと

19年度の学習テーマは、「健康な生活を送るために～家族や地域の仲間と共に心豊かに生きる～」でした。問題発見講座「心の健康」清涼寺の座禅・写経・精進料理体験は、自分を見直す時間が持てました。

20年度学習テーマは、「自分や周りの人たちが健康な生活を送るために～家族や地域の仲間とともに心豊かに生きる～」で、問題発見講座の「オブザーバーによる地域活動紹介」では、彦根元気計画21のボランティア活動の紹介や折り紙サークルによる折り紙体験、NSCの活動紹介とともにグループ対抗でニュースポーツを体験しました。生涯カレッジ彦根校から生まれたサークル活動による講座が持てたことは、大きな成果であり、生涯カレッジの理念のひとつの学習成果を生かすことに繋がる結果と

も言えます。また、「自分自身の体を知ろう（あなたの体力年齢）」では、それぞれの体力の現状を知り、今後の健康維持への問題提起にもなったと思います。

21年度学習テーマは、「健康な生活を送るために～家族や地域の仲間とともに心豊かに生きる～」で、20年度に続き、問題発見講座で「オブザーバーによるニュースポーツの紹介」NSCの活動が生かされました。実験・実習講座「自彊術」全5回を通し、生涯カレッジ彦根校の3つ目になる自彊術サークルが生まれました。

22年度学習テーマも「健康」に重点をおきました。「心の健康」清凉寺の座禅・写経・精進料理や県立大学での体力測定はアンケートによる人気の講座が入りました。「仲間づくり・野外炊事」では、荒神山自然の家職員の指導で、アイスブレイキングを行いました。これは、18回の講座を通じて仲間づくりをしたいという受講生の要望に応えたものでした。調理実習の講座は年々男性も積極的になっています。平均寿命が延び、ますます個々の自立が求められてきている社会の中で「食」は大事な要素であり、性別に関わらず調理をすることの必要性を感じます。

23年度学習テーマは、「健康」の継続でした。人気のある講座「自分自身の体力を知ろう」の体力測定、「心の健康」清凉寺の座禅・写経・精進料理体験、「オブザーバーによるニュースポーツの紹介」は問題発見講座に定着。特にオブザーバーによるニュースポーツの紹介は、さらに本格的に体育館を使用し、適度な運動量で皆いきいきとしていました。この年は、東日本大震災のあった年でした。毎日のテレビから計り知れない驚怖と衝撃を受け、同時に被災者の驚愕や悲哀を強く心に感じ、普通に生活していることに罪悪感すら覚えた年でした。さらに社会経済の低迷、就職活動の大学生の不安感など社会から受ける心の歪みを感じた人が多かったように思います。また、その歪みにすら気が付かずに健康を害う人が多かったと思います。このことから、いかに体の健康・心の健康が大事であることを強く感じた年でもありました。不安な世の中、しかもストレスの多い社会の中で、個々が心豊かに生きる術をしっかりと持つということが大事だと強く思いました。ブータンの国王ワンチュク夫妻のように幸福感を感じるような生き方をしていきたいと思いました。

24年度は、「健康」「健康学ノススメ」をテーマにカリキュラムが立てられました。問題発見講座に新しく文化的なことが入ってきました。「楽しいレクレーションゲーム」「傾聴と共感～介護の基礎知識～」など老後のデイサービスの体験を垣間見ることができました。リアルに学ぶことができ、介護製品の紹介や介護食の試食にも驚きを感じていました。誰もが通る道であり、偏見を持たずに利用することができたらよいと思いました。

25年度から学習テーマは、「健康」だけではなくなりました。学ぶ力は「生きる力」～健康・歴史・文化を学び、自分らしい生き方を探そう～と「生きる力」にシフトしたものになり、フィールドワークを取り入れ多彩なカリキュラムとなりました。「書に親しもう～筆伝リレーで人の心をつなぐ～」では、一文字を各グループで決め、大きな筆を持ち一画ずつリレーして書くという体験をしました。初めての試みに動揺しながら筆を持ちました。その結果、



世界でたったひとつのグループによる作品となりました。

このように各年度を振り返ってみますと、以前は学習テーマが「環境」だったようですが、私が受講生であった平成 17 年・18 年のテーマは「健康」、その後オブザーバーをしてから 24 年度まで「健康」のテーマは続きました。25 年・26 年・27 年度は、その「健康」のテーマをもう少し広げて、学ぶ力は「生きる力」、「健康・歴史・文化」などを通じて学ぶことに移行してきています。

#### 【4】新たな生涯カレッジから地域活動へ

彦根校の特徴は、オブザーバーを置いているということです。そのオブザーバーの仲間から、3つのサークル活動が成立しています。受講生が修了した後も、仲間の集う場所がそこにあるということに大きな意味を持つと言えます。こうしたサークルが地域社会にまだ十分生かされていません。理念でいう学習機会提供機関相合のパートナーシップの確立は、公民館・高校・大学だけではないと考えます。生涯カレッジで生まれたサークルあるいは人材もその中に組み入れることにより、生涯カレッジのさらなる発展性が見られると言えます。また、それぞれの独立性が生かされるのではないのでしょうか。指導力が不足していると考えれば、応用力強化が得られる学習支援システムを考えてもよいのではないかと思います。そのシステムが構築されたならば、生涯カレッジで学んだことを発展的に社会に生かすことができると考えます。

勿論、現在の活動する場所として、健康推進課の募集する健康推進員やひこね元気クラブ 21 のボランティア、ボランティアガイド、子育て支援ボランティアなどボランティア活動の支援の場所があります。実際オブザーバーのほとんどの人が地域社会で活動されています。太極拳、金亀体操、ラジオ体操、ひこね元気クラブ 21 歩こう会などに参加して健康維持にも少なからず努めています。

今後問題となることは、従来の受講生の年齢が高くなっていくであろうということです。少子高齢化の社会を考えると、高齢者の平均寿命の延伸をまず考察しなければなりません。それには、健康寿命を伸ばすことが必要になります。つまり、健康寿命に繋がる学習の場の提供が必要となってきます。退職年齢も上がってきています。受講生の年齢も、従来の退職年齢の 60 歳からではなく、65 歳から或いは 70 歳からのカリキュラムが必要になってくると思います。

また、年金が少なくなっていくことが考えられます。受講生の負担にならないようにしなければならないと思います。そして、社会活動に繋がるボランティアの年齢も高くなることは否めません。

福祉の面から考えても、介護しなければならない高齢者が増加します。健康な高齢者が面倒を見るということが必要な時代になってくるのではないかと思います。このような現状から、今後早急に、健康寿命を伸ばすことに繋がるカリキュラムを考えなければならないと思います。また、認知症予防策をあらゆる面から真剣に考えなければならないと思います。今後の生涯カレッジやレイカディア大学（60 歳以上の条件）は、地域社会に対して積極的に活動できる人々への学習の場として、健康寿命の維持への高い学習の場としての位置づけを考えて行かなければならないと思います。

## 一歩踏み出したその時から

### 多くの仲間との出会いが！

平成 19 年・26 年彦根校修了生 伊藤 正敏

20 数年にわたり地域社会体育活動普及の一員として従事していたとき、「広報ひこね」での紹介記事がきっかけとなり、淡海生涯カレッジ各種学習プログラムに興味を抱きました。自ら生涯学習として地域住民のスポーツ振興に携わってきましたが、自らの健康について日常の学習・体験等を学びたいと思ったところに、「健康な生活を送るために ～家族や地域の仲間とともに心豊かに生きる～」という学習テーマに魅力を感じ、受講に踏み切りました。

問題発見講座から、実験実習講座、理論学習講座など、私にとっては講座内容には満足でした。

そうした講座の中で、「自分自身の体を知ろう」という講座でお世話していただいた、滋賀県立大学准教授の O 講師を知りました。各講座の学習の合間に話題になった、「O 講師の発案で、過去のカレッジ卒業生自らが参加するニュースポーツサークルがあるよ。」と聞き、その年の途中より参加させていただくこととなりました。

このサークルは平成 17 年に始まり、それから現在に至り今年で 10 年目を迎えます。名称も生涯カレッジ NSC（ニュースポーツサークル）となり、O 講師の縁で滋賀県立大学を会場にサークル活動を続けています。

私事になりますが、淡海生涯カレッジ彦根校は平成 19 年卒業の後、平成 20 年から 23 年までの 4 年間、オブザーバーとして受講生のお世話をさせていただきました。その後、地域の自治会等の役員に専念し、平成 26 年は新たに受講生として再度学ばせていただきました。



淡海生涯カレッジから生まれたサークルは、会員間の親睦から新たなチャレンジと意欲がわき、対外試合への仲間づくりへとつながります。

彦根のスーパーカロム大会、栗東のスローイングビンゴ大会、東近江のディスコ大会、ひこね地域総合型スポーツクラブ各大会の参加と、愛好者仲間との交流や親睦を深めています。



今後も、彦根校オブザーバーの会員（NSC）から受講生仲間へ、機会があればお誘いし、多くの仲間との輪を広げていきたいと活動中です。

自分自身で楽しみ、仲間と楽しむ時間を、自分らしい生き方を見つけよう！



# 私の「淡海生涯カレッジ」振り返り

長浜校修了生 棚橋 勝司

仕事々々の毎日から退いた後の生活落差から襲ってきた空虚感にさいなまれ、何かをしなければとの焦燥が募っていたときに、市の広報誌で「淡海生涯カレッジ」を知り応募したのが平成21年でした。開講式当日、知らない人ばかりの中、無知無学な自分が「何を学ぶのか？ついて行けるだろうか？」と興味と不安にワクワク、ドキドキし身体が熱くなったのを鮮明に思い出します。

受講するうちに義務教育とは違い、自ら求めて学ぶ人たちの真摯な態度と、学内の雰囲気とその不安も解消し、綿に水が染み込むがごとく、講義が心地よく身体に吸収されていく思いをしました。

改めて歴史、地理、物理、化学等々、知らなかったことがまだまだ沢山あることの驚きと新鮮さ。共に学ぶ人との交流で、今までとは違った人の輪（和）が出来、趣味、生き様に別次元の世界が広がりました。

また、鈍った頭と合わせて、なまけた身体のため健康のために、受講場所が6km以内は徒歩、20km以内は自転車通学を心がけ、町並み、田園を巡っては車では味わえない季節の移ろいを肌で感じたのも収穫の一つでした。

夢中で没頭し、気がつけば彦根校への1年間留学（??）も含め、ほとんど休むこともなく6年もの年月が経ちました。次第に「生涯カレッジ校」の人氣が高まり、ここ数年は入学するのも抽選に。さすがに留年続きの自分が、人を押しのけてまでも厚顔で新しい人にと再応募を控えましたが、うれしかったのは、理論学習講座に関しては会場の席に余裕があるため受講できるように取り計らっていただいたことです。

その他にも、受講生からの要望、希望は種々反映していただき、「問題発見講座」では印象深かった「伊吹山」の花畑の観察や、当時、このような大問題になるとは思いもよらなかった「大飯原発」の見学にと、湖北のみならず広範囲に多様な企画をしていただいた事務局のご苦労には大変感謝しています。

振り返って「淡海生涯カレッジ」が日々の充実と自分の世界を広げるに多大な影響をもたらしたことに思いを馳せ、今後も学ぶ機会を求めて自分磨きを深めていくとともに、この体験が何かに展開出来ないか考えていきたいと思えます。

**「知ることを続ける」**をモットーに！！

## 淡海生涯カレッジを受講して

長浜校修了生

馬場 二平

会社を退職後趣味の登山を楽しみながら、これからも仕事をするかのように新しい技術への好奇心から、京都や滋賀の大学の技術講演会や各種団体の技術セミナーなどに参加していました。そんなある日淡海生涯カレッジの事を知り早速長浜校への受講を申し込みました。以後平成 22 年～26 年長浜校、平成 25～26 年の 2 年は長浜校・彦根校と掛け持ちで受講させていただきました。

最初は新しい友達づくりが出来ればとの単純な考えで参加しましたが、各講座ともよく企画され、楽しいフィールドワークや理科実験、大学での専門的な講義などなど、興味ある話題も取り入れて分かりやすく説明していただきました。

講義後の質問では皆さん多様な考えを持っておられ、自分も柔軟な考え方ができるようになりたいと思いました。

このような機会にもっと皆さんと知り合えたら・・・と、長浜校や彦根校で懇親会を企画しましたところ多くの方に参加していただき、楽しい時間が持てたことは大変良かったと感謝しています。その後も知り合えた方々とは時々連絡を取り合ったりしています。

事務局のご努力、ご苦勞のおかげで内容も充実し、益々人気が出てきたことを喜びたいと思います。反面、リピーターはなかなか再受講できない状況となっているのが残念です。

学習したことを実際に活用するような活動は出来ていませんが、地域でのボランティア活動を通じて、そのときどきに少しでも活用できればと考えています。



# 学びの成果－淡海生涯カレッジ修了生調査から－

## 滋賀県生涯学習課

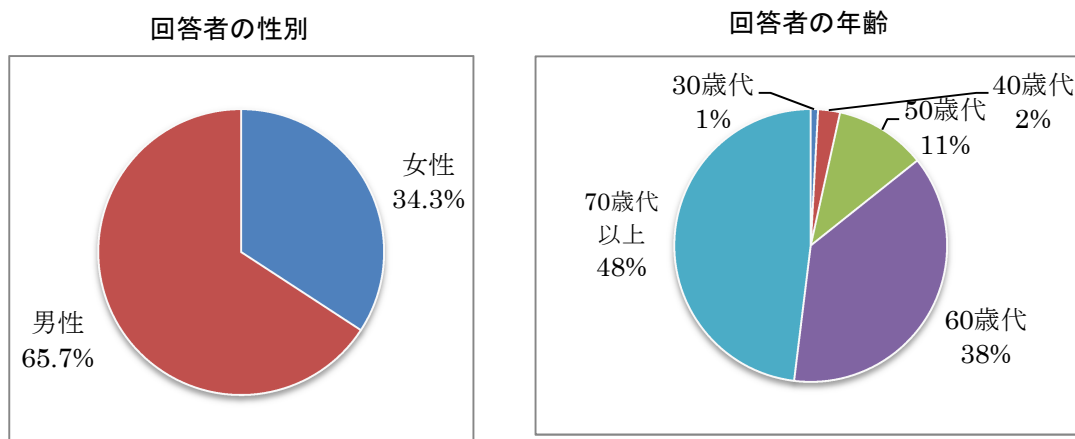
淡海生涯カレッジは、事業がスタートして、平成27年度で20年目の節目の年となる。そこで、淡海生涯カレッジを修了した方々を対象に、このカレッジでの学習の成果をどのように活用しておられるか等について調査した。

調査結果は、カレッジの受講生や広く県民の皆さんにホームページ等で紹介するなど、滋賀県の生涯学習の充実に役立てたい。

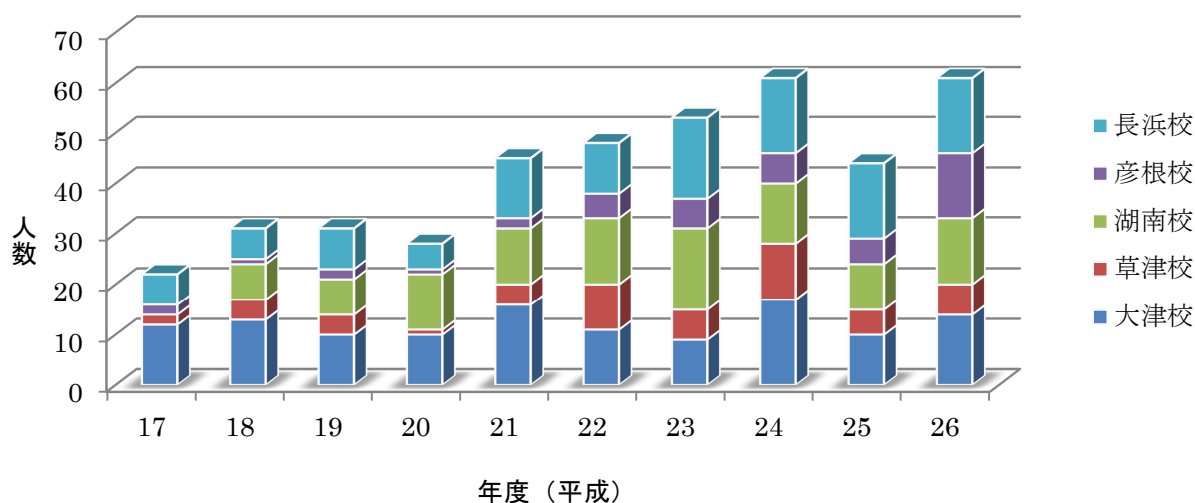
- (1) 調査対象 淡海生涯カレッジを過去10年間に修了した方
- (2) 調査方法 郵送法（回答はインターネットでも可）
- (3) 調査期間 平成27年7月1日～7月31日
- (4) 調査人数 675名
- (5) 回答人数 231名 回答率 34.2%

### 調査結果

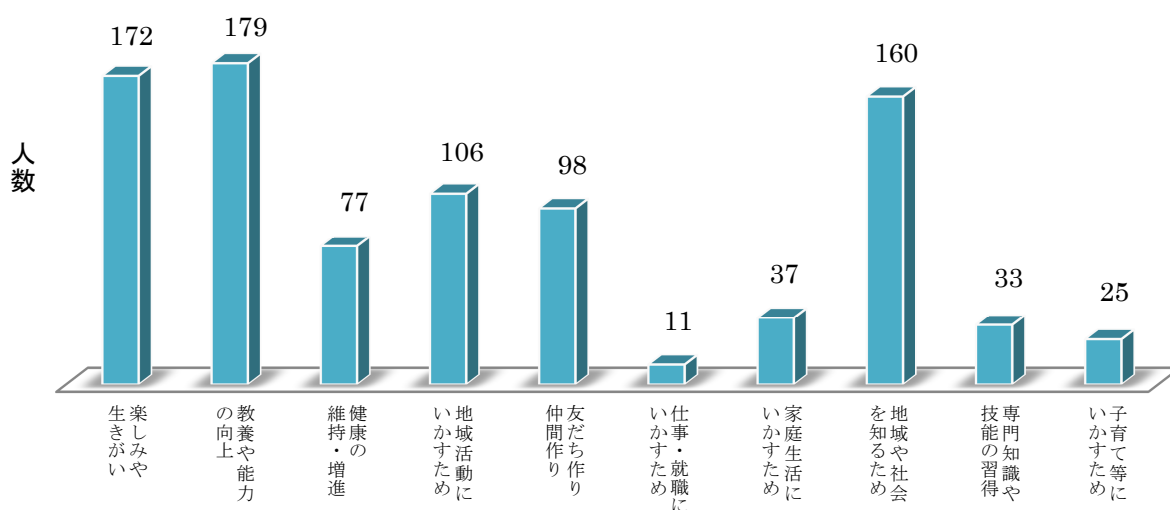
#### 1 回答者の性別と年齢



#### 2 回答者の修了年度

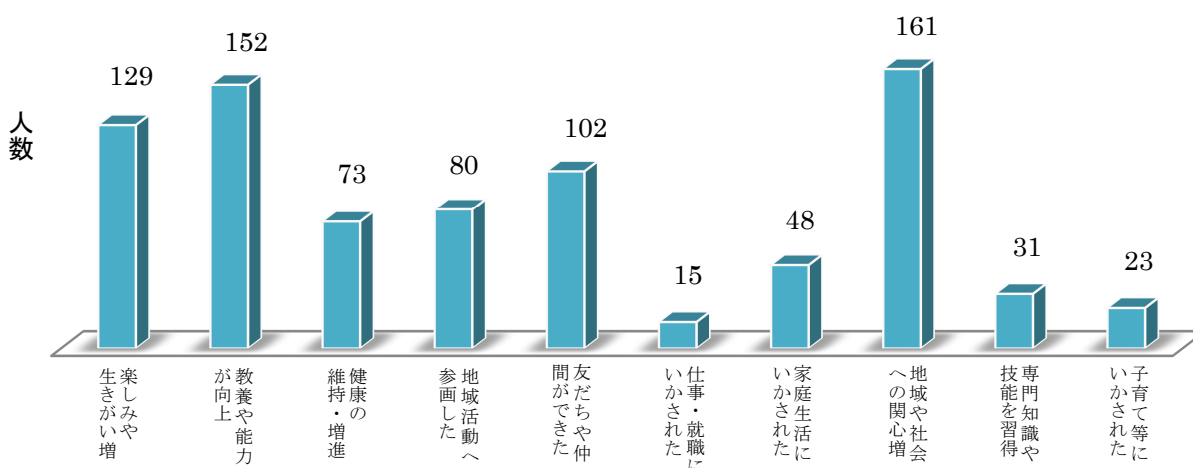


### 3 受講した目的



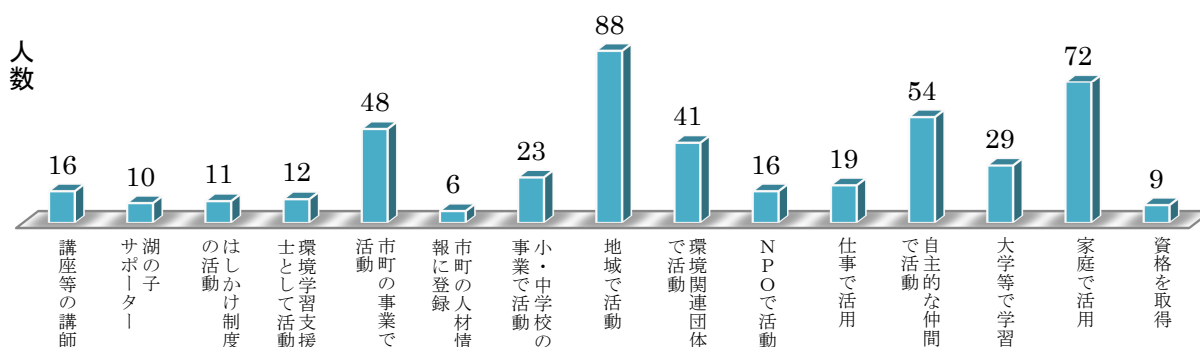
- 「自分の教養や能力を高めるため」が最も多く、次いで「自分の楽しみや生きがいのため」
- 「地域や社会に役立つ活動をするため」と答えた方は、106名で全体の45.9%

### 4 受講後の自身の変容



- 「地域や社会のことに興味が高まった」が最も多く、次いで「自分の教養や能力が高まった」
- 「地域や社会に役立つ活動を行った」と答えた方は、80名で全体の34.6%

### 5 成果の活用状況



- 「地域で活用」と答えた方が最も多く、88名で全体の38.1%
- 次いで「家庭（日常生活）で活用」と答えた方が多く、72名で全体の31.2%
- 3番目に多いのが「自主的な仲間活動」と答えた方で、54名で全体の23.4%
- 以下、「市町の事業で活動」が、48名（20.8%）、「環境関連団体で活動」が、41名（17.7%）

## 6 具体的な活動内容や学習成果

No	活動内容や学習成果	所属団体やグループの名称等
1	滋賀大学「環境学習支援士」会に入会し、小学校へ環境学習の出前講座を行っている。	滋賀大学「環境学習支援士」会
2	会員自らが計画し、地域との担い手として取り組む。 ・年に一度の「ひょうたん寄席」(落語会)今年で8回目。 ・保育園や幼稚園でのクリスマス会で毎年サンタクロース役をつとめる。 ・図書館での葉刈り奉仕 その他、毎月1回定例会。2月に1回懇親会や年に2~3度の旅行を実施している。	『一休会』 長浜市小一条町 243 尾崎 清(代表) 0749-62-2988
3	湖南市に於いて、健康体操クラブの立ち上げ(代表:奥村さん)。その後、市内の他団体と合流したかもしれません。	滋賀県立男女共同参画センター推進員 0748-37-3751 湖南市人権課男女共同参画リポーター 0748-71-2354
4	・淡海生涯カレッジのオブザーバーとして活動させていただいています。 ・彦根文芸の理事として文学の復興や広めることに努めています。	彦根文芸(彦根市図書館内)
5	大津市自然家族事業ボランティア(EVS) 親子・家族で自然に学び自然を楽しむ行事、里の日3回 びわ湖の日、びわ湖漁の日、山の日、年6回の環境教育プログラム	
6	・琵琶湖レジャー利用監視員 ・琵琶湖レジャー適正化審議会委員 ・少年補導員 ・自治会役員	大津北警察署少年補導(委)員会 (北署生活安全課、少年センター)
7	19年度受講途中より、すでにサークル化(県大講師の発案)されていました、「健康な生活をおくるために」の一環としての軽スポーツをみんなで楽しもうという取組に参加。「生涯カレッジニューススポーツサークル」現在も活動中(会員15名)。19年度受講終了から20・21・22・23年度はオブザーバーとして新受講生のお世話をさせていただきました。24・25年度は自治会活動の中での防災関係講座で活用。26年度は新たに再受講し「文化的講座」から市文化財課・主催彦根城博物館等の催しに参加受講しています。	生涯カレッジ・ニュー・スポーツ・サークル(NSC) サークル世話人 伊藤正敏 (0749)24-1676 090-2119-4079
8	1. 湖の子サポーター1年 2. 大津市自然家族(里の日、びわ湖の日、びわ湖漁の日、山の日(びわ湖パレー))EVS、ボランティア8年(指導者スキルアップ研修会、公園活動、河辺の活動、里山の活動) 3. 野洲北野地区 男の料理8年 4. 京都市北区、マンション理事長、町内会長1年	
9	平成17年3月よりパソコンのボランティア活動を始めてから現在も彦根市の2か所の老人福祉センターで高齢者の方々を対象に講座を続けています。高齢者の方々は、大変熱心であり、また高齢者の方々は地域活動(自治会役員、○○会の役員など)で、パソコンで色々な書類作成の必要が多く、そのお手伝いに生かしています。	彦根老人福祉西センター パソコンクラブ

10	湖の子サポーターとして約 10 年お手伝いをしています。この頃やっと自信を持って子どもたちに接することができるようになりました。 (1)カッター活動支援 (2)ブランクトン観察支援 (3)ロープワーク指導等	「湖の子」サポーター会INTO
11	環境フォーラム会員登録、ボランティア活動 はしかけ会員登録、フィールドサポーター 修了した仲間と会を作り、見学やリクレーション活動をしている。今年度からは「こだわり滋賀ネットワーク」こだわり農業	おおつ環境フォーラム 「菜の花プロジェクト」 大津市環境学習情報室内 明日都大津4F
12	知識が増え、仲間との会話にはずみがあった	
13	・鉄コーティング直播栽培を普及させること ・小学生対象の福作り教室への参加	
14	環境学習支援士の資格を取得した仲間と一緒に会を立ち上げ、出前授業や地域講師として活動している。	滋賀大学「環境学習支援士」会
15	・食事作り(伝統食の活用) ・孫の教育(昔のことを教える)	
16	びわ湖の水資源(環境)について、自治会で報告。話し合いをする。	三ツ矢菊自治会 長浜市元浜町 30-27 (自宅) 0749-62-8233
17	現在観光ボランティアガイドとしてお客様を長浜で御案内しているが、学んだ科学的内容が含まれ、内容に厚みができたと思います。	NPO長浜観光ボランティアガイド協会
18	湖南省老人クラブ連合会で活動中	湖南省老人クラブ連合会
19	湖南省ボランティアセンターに「いしべっこ」として加入し、児童、学童の支援活動を通じ、社会活動に参画。活動内容は添付会員募集・活動内容のとおり	湖南省ボランティアセンター ふれあい「いしべっこ」グループ
20	通信制高校のスクーリング授業の教材・資料などに役に立っている。	びわ湖の水と環境を守る会 大津市南志賀 3-7-8-202 077-515-7100
21	・草津市認知症サポーター養成講座の講師 ・草津小学校スクールガード ・草津市草津学区青少年育成区民会議役員 ・草津市災害ボランティアPコーディネーター会役員 ・レイカディア大学同窓会草津栗東支部支部長 ・グリーンプロジェクトびわ湖 ・NPO法人コラ・アント・アイ理事 ・日本ボーイスカウト指導者 ・県立福祉センターボランティア	谷口 岩人 525-0036 草津市草津町 1911-2 077-562-7358
22	町の環境部にて指導及び活動を行う。	
23	NPO法人湖南ネットしがの会員は現在 50 人、30 代~70 代の現役、定年退職者、主婦などITに関心があり、シニア情報生活アドバイザー資格保有者で構成されています。企業とのパートナーシップによるスマートフォン教室、外国人向けを含むIT関連職業訓練、育てエンジニア！ロボット教室など、会員自身のIT力を活かした社会に貢献できる活動に参加しています。	NPO法人湖南ネットしが 野洲市小篠原 2213-5 深尾ビル3F 077-587-2501

24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県環境自治推進員</li> <li>・甲賀市史編さん協力員</li> <li>・甲賀市地域新エネルギービジョン策定委員</li> <li>・甲賀市男女共同参画のまちづくり懇話会委員</li> <li>・県地球温暖化防止活動推進員</li> <li>・県食品表示ウホッチャー</li> <li>・県政モニター</li> <li>・G-NETしが推進員</li> <li>・しがらきの郷歴史ボランティアガイドの会</li> </ul>	滋賀県地球温暖化防止活動推進センター 草津市矢橋町掃帆 2108 077-569-5301
25	健康面、週に数回ジョギング、ストレッチ、自彊術 etc の実践(人に聞かれたら教える程度)	
26	特別な活動はしていませんが、せっかく講習を受けた知識を生かし、今後とも地域や仕事に生かせればよいと考えております。	
27	子ども会活動や青年活動、老人福祉等の場に招かれて講和や実験をした。	
28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・淡海生涯カレッジで自分の知らないことが多いことを知りました。また継続して生涯学習の必要性を痛感しました。淡海生涯カレッジ修了後、通信制大学に入学し引き続き勉強しています。</li> <li>・野菜や食品を購入するとき、滋賀県産の減農薬の野菜食品を購入するように心がけています。</li> </ul>	
29	先輩諸氏の頑張りで、平和堂「夏原 Grant」の支援金をいただき、今年から滋賀県内の小学生に対して「環境学習」「食育学習」を行うことになっています。支援士の会 2 年目の新米会員ではありますが、精一杯今年は夏原 Grant の支援事業を成功させるため活動したいと考えております。日々合間を縫って勉学に励んでいます。また、一番下ではありますが、理事にもさせていただいております。自然観察会など自分の得意な分野で役に立とうと考えています。山登りの趣味も生かせるので丁度合っています。	滋賀大学「環境学習支援士」会
30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町の団体の主催する講座、講演、勉強会等に積極的に参加し、集約に努力。</li> <li>・レイカディア大学に入学。募集年齢すれすれで合格。戦時中学生で、食料(甘諸)作りで勉強できなかったため。</li> <li>・地域の学習会。ボランティア活動。地区の役職引受け。</li> <li>・地区の仲間、グループ募集。古代の発掘遺跡等に参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レイカディア 31 期卒業 31 会 (地文化)草津校 草津市桜ヶ丘 3 丁目 13-10 桜木勇 077-564-3078</li> <li>・鎌掛の歴史学習会 蒲生郡日野町鎌掛公民館内歴史の会 公民館 0748-52-1210 福本英一 0748-52-2888</li> </ul>
31	緑化推進活動 庭づくりのポイント、おすすめ品種等の紹介。緑にふれることによるメリットの紹介。小中学生の学校活動もしていきたいです。	草津市ガーデニングサークル グラッシー
32	草津市のエコキッズ、甲良町のグリーンファイターズや栗東市自然観察の森 JVL の活動にて生かしました。	
33	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体さんからボランティアで講師等の依頼が多数来て、協力できる限りしております。</li> <li>・PTA、サロン、中学文化祭、まちづくり協議会等</li> <li>・健康バンド教室、ニュースポーツ体験等</li> </ul>	湖南市ちよいスポクラブ (総合型地域スポーツクラブ) 九條 親道 090-9042-5512
34	滋賀大学「環境学習支援士」会に入会している。	えこっち・やす 運営委員 野洲市役所環境課
35	30 年前より続く「史談会」に 15 年以前に入会し、郷土の歴史等を勉強しています。資料展も今年で 28 回目。正月(1 月)秋祭(9 月)には外部から講師を招き、講演会も毎年実施しています。生涯学習を受講し、よろ広く学ばせていただいたことは、地域活動に役立っております。	「史談会」 長浜市宮部町
36	習った郷土料理を作るようになった。	

37	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構の「身近な水環境の全国一斉調査」に参加し、現在大津市膳所1丁目の相模川の水質調査をしています。</li> <li>・湖の子サポーターに参加し、カッター活動、プランクトンウォッチング、水調べ等々に参加させてもらっています。</li> </ul>	
38	作業所でボランティア	
39	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロクハ公園サポート隊として公園整備に活動中</li> <li>・びわこ地球市民の森、森づくりサポーターとして活動中 (グループ「しんゆう」)</li> <li>・森の整備: 下草刈り、樹木の伐採、枝落とし、イベント補助等</li> </ul>	『しんゆう』 守山市水俣町 2727 びわ湖地球市民の森(077-585-6333)
40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境講座を受講、川の水質検査を2~3年した。</li> <li>・グループ活動として、食油による石けんを作ることを2~3年した。</li> <li>・高齢のため活動年についてはっきりしたい。</li> </ul>	
41	米原市社会教育委員	
42	生涯カレッジの素晴らしさを友人知人にPRし、受講を促進	
43	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民環境スクール→河川の水質調査、ホタル調査、トンボ調査</li> <li>・小学校での環境体験教室の指導員</li> <li>・中山道「宿場まつり」企画、実施</li> </ul>	彦根市環境保全指導員連絡会議 (彦根市生活環境課)
44	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初級者「パソコン講座</li> <li>2. 湖の子サポーター</li> <li>5. 「まち歩き」講座・企画推進、エコ料理講座・企画推進</li> <li>8. 平野探偵団、ルネ大津自治会(夏祭り)</li> <li>10. NPO おおつ環境フォーラム</li> <li>14. 省エネ</li> </ol>	NPO おおつ環境フォーラム 077-528-2020
45	横山はらっぱ倶楽部での活動 米原市との境界南北に横たわる山なみ(通称横山)を活動の場として里山の環境に触れ、学び、伝えていくことを目的に平成16年(2004)に市民活動団体として創設された。11年目を迎え現在会員数35名(うち女性15名)男性平均年齢70歳、無理せず楽しくをモットーに活動を継続している。	横山はらっぱ倶楽部 長浜市八幡東町632 長浜市役所 事務局 森林整備課(0749-65-6526)
46	健康維持とボランティアを兼ねた山歩きの会を立ち上げた。	里山ボランティア“山巡り” (湖南市社会協議会)
47	<ul style="list-style-type: none"> <li>・彦根城その他の観光ボランティア活動として</li> <li>・彦根市の老人福祉センターで毎月パソコン教室の講師として</li> <li>・生涯カレッジ彦根校のオブザーバーとして支援していた</li> <li>・自治会体育委員</li> </ul>	彦根ボランティアガイド協会 (彦根市本町1-3-24 彦根市俳遊館内) 0749-22-6849
48	60の手習いから始めて、自分の目に止まった「あ、これはいいな」と感動した場所で鉛筆画スケッチをしています。絵を描きながら「なぜここをスケッチするのか」自問しながら「この絵を通して観る人に何を訴えたいのか」を考えます。淡海生涯カレッジで学んだ眼も役に立ちます。私の愛読しているのは、福山聖子さんのスケッチと文です。毎週水曜日の新聞記事を切り取ってファイルが9冊にもなりました。	
49	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然や水辺に親しみ、生き物と触れ合い、楽しく交流</li> <li>・ホタルを通して自然の素晴らしさ、おもしろさを伝え、地域の自然に愛着を深める。</li> <li>・暮らしの中で水辺の利・活用。水辺を人々や生き物たちの楽しい交流の場に。</li> </ul>	草津でホタルを楽しむ会 草津市川原1丁目4-3 TEL/FAX 077-564-0918 E-mail sk120511@zd.ztv.ne.jp
50	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. はしかけ活動 琵琶湖博物館で琵琶湖の歴史等学習、セミナー参加等</li> <li>13. 滋賀大学での環境学習~グループでアオコ、アカシオ研究(富栄養化)</li> <li>2. 湖の子サポーターでのカッターボートサポート、うみのこ環境学習サポート</li> </ol>	
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の防犯パトロール活動</li> <li>・子ども会活動</li> <li>・天文教室</li> <li>・地元の歴史上の人物の物語作り</li> </ul>	堅田子ども安全ネットワーク (大津アストロクラブ) 堅田学区子ども会育成協議会 (堅田学区学区民会議)

52	小学校の剪定を含む美化活動並びに教師ボランティア 定年後の社会活動支援のための企画運営(例 地域の良さを知る歴史ハイキング、陶芸教室、男のクッキング、はつらつ講座、ガーデニング、ジャズコンサートなど音楽の会等)	こいこい元気クラブ
53	守山市シルバー人材センターで 15 年間以上継続して活動している。他人のために、地域のために、近くの公園の清掃活動を続けており、先日 15 年間以上継続中の表彰をいただき、表彰状と記念品をいただきました。心身ともに健全な限り、まだまだ継続する覚悟です。淡海生涯カレッジもまだまだ継続する覚悟です。	公益財団法人守山市シルバー人材センター 〒524-0021 守山市吉見二丁目 5-1 077-583-2727
54	・地元の川や堤防のゴミ拾い(個人で) ・地球環境を改善するための省エネ生活。電気、水、灯油の節約など	地元(守山市)の福祉協力員をしています。
55	・コーラス一緒に歌いましょう ・昔懐かしい写真を見たい道具を使って語り合い ・歌に踊りに寸劇に笑いありのうぐいす会の楽しい時間 ・日頃の暮らしの困ったに安心窓口出前講座 ・3B 体操 ・毎日の食事ちょうどいい食事のバランスについて ・音楽鑑賞 ・わきの味覚手作りお菓子里に挑戦 ・長浜警察署交通安全の話 毎月第 3 火曜に決定午後 1 時半から 4 時まで	
56	・琵琶湖お魚探検隊…毎月第 3 土曜日に親子でお魚調査、地引網体験、西ノ湖探検 ・琵琶湖畔の景観を良くする会…毎月第 1 月曜日、湖畔整備、デイキャンプ ・東近江に水環境自治協議会、ヨシ刈り体験、大学、起業、地域活動への環境保全活動支援	琵琶湖お魚探検隊 近江八幡市縄平町元 33 0748-32-2792 丹波喜徳
57	・家庭での省エネ(水、電気、ガス) ・食品をはじめ、日用品の購入・使用に配慮する。	
58	・高月町認知症キャラバンメイトに参加しています。 ・小学校サロン等で寸劇などを年 2 回ほど ・老人福祉センターカラオケ教室より介護施設訪問、皆さんと一緒に歌います。 ・高月公民館教室 花のアトリエ A 年 1 回小学生希望者 5 名程で教えます。参加者 8 名程度です。	
59	長浜市の子育て支援におきまして、前年度より市内の保育園や認定こども園等で子育てでサポーターとして活動させていただいております。長浜市や滋賀県の事象等をお話しできることなどがあり、修了できてよかったな！と考えております。	子育て推進わいわいくらぶ 長浜市木之本町田部 455 090-3992-5155
60	受講内容と直接関係はないが、仲間づくりと話題作りには大きな効果があった。	NPO ナルクびわこ湖南 本部: 大阪、滋賀に 5 拠点 ホームページにて確認してください。 NALC ナルク検索
61	・現在も週 3 回大阪まで勤務しているため、地域での奉仕活動はしていません。生涯カレッジで学習したこと、特に健康管理と老化防止を日常生活において実践しています。また、仲間との定期的な運動行為に参加し、仕事においてもチャレンジ精神で取り組んでいます。 ・今年度の淡海生涯カレッジ甲賀校の運営委員をお引き受けしました。	
62	・ふれあい給食⇒月 2 回、独居老人への弁当作りと配達。ボランティアグループで A、B 班で弁当作りをしており、現在男性 4 名、(各班 2 名)程度参加しています。配達は別グループで、配達と安否確認をしています。男性は男の料理教室参加のメンバーが 4 名です。 ・マーガレット⇒月 2 回～注文に対応。独居老人へ月 1 回他。男性 4 名、女性 6～7 名で活動。ケーキ作り。活動は湖南市ボランティア調理室にて。	ふれあい給食、マーガレット 湖南市ボランティアセンター 0748-72-1523(事務局:石津さん)

63	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長浜さつきの会…市民交流センターにて年2回の展示会活動中心の20名程度の会</li> <li>・環境学習支援士の学びは貴重な体験であった。その後の活動参加は家庭中心となり、地理的にも長浜より大津へは気軽に動けず。</li> </ul>	長浜市民交流センター
64	「未来のびわ湖人育成のための学習支援事業」小学校5年生の「うみの子」乗船前後の出前授業、1.「びわ湖の昔と今を学び未来を考える」講座 2. びわ湖の問題のある点を考え自分たちで何ができるのかを考えてまとめるワークショップ 上記1、2をセットで2時限の出前授業を提供。	滋賀大学「環境学習支援士」会 〒520-0862 大津市平津 2-5-1 滋賀大学教育学部内 077-537-7821
65	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高校非常勤講師として</li> <li>2. レイカディア大学</li> </ol>	
66	節電、節水、ゴミの減量	
67	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滋賀県理科支援員として活動(平成21, 22年度)</li> <li>・地球温暖化防止活動推進員として活動(平成20年度～22年度)</li> </ul>	
68	<ol style="list-style-type: none"> <li>①はしかけ里山の会(琵琶湖博物館)年4回の「里山体験教室」(野洲市大篠原)「びわ博フェス」などに参加し世話役として活動。</li> <li>②おおつ環境フォーラム「菜の花プロジェクト」「菜の花まつり」「大津っ子祭り」などに参加、手助け</li> <li>③こだわり滋賀ネットワーク(滋賀県農政水産課)大津・高島支部のスタッフ(会計)として</li> </ol>	
69	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 琵琶湖博物館はしかけ(里山の会)春夏秋冬の四季にわたり里山(大篠原)の自然環境の中で、一般参加者の親子と動植物の観察等を行う。また、博物館の生活工房では、そばの種蒔きから収穫、そしてそば打ちまで楽しむ。</li> <li>2. おおつ環境フォーラム菜の花プロジェクトに参加 雄琴の菜の花畑で「菜の花まつり」を行い、菜の花の種の収穫作業と油絞りの等循環型社会を学び、菜種油でフライドポテト等を揚げ、一般参加者の方々と楽しむ。また、「大津っ子まつり」にも参加します。</li> <li>3. 龍谷大学の森で樹木や落葉等の整理を行い、森を育てる作業に参加(月1回)</li> </ol>	
70	<ol style="list-style-type: none"> <li>①NPO が主催するイベントで「新しい公共」、「定年後の地域デビュー」そして「ピケティ教授に学ぶ、くらしと経済」というタイトルで講話をしている。</li> <li>②滋賀大教育学部で学んでいる。教育学の講座を受講し、「教育のあり方」を学んだ。(環境学習支援士の資格取得はしない。)(4年間で11講座を受講完了)</li> </ol>	NPO 法人 ライティング心と未来 大津市
71	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私の住居地の小学校で学校支援地域コーディネーターとして、平成25年度1年間ですが、週5日、1日4時間学校に在沖して、地域の諸団体および公民館、中学校とも連絡して、小学校支援の依頼や連絡調整等をして、地域の方々に学校が求めるボランティア活動の実施に協力していただきました。</li> <li>・平成27年度(現在)は公民館行事、子どもの居場所づくり事業として公民館応援隊7名中の1人として、年間事業計画し、実施にあたり、その手配、準備、実施に協力しております。(年間8回計画しております)</li> </ul>	
72	ゴミの削減、排水への配慮	
73	民生委員、児童委員をさせていただき、一人暮らしや子ども等のことにも目をかけるようにしています。	
74	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滋賀県の自然環境やびわ湖と共存した農業のあり方や食について、会員が集い共に考え行動することにより、県民の食への安心感の醸成、地産地消の推進、滋賀県農業の振興に寄与することを目的とするものです。</li> <li>・環境こだわり農業の生産者と消費者をつなぐ活動(私は消費者として参加)です。</li> <li>・今年度の大津・高島支部活動の主なもの</li> <li>・こだわり農産物を食べる一料理と食事(年3回)</li> <li>・落花生の草取り農業体験</li> <li>・苺の定植、落花生・さつまいもの収穫</li> <li>・給食試食会(志賀中学校) ・支部交流会、その他</li> </ul>	こだわり滋賀ネットワーク(大津・高島支部に所属) 大津市京町4丁目1番1号 滋賀県農政水産部食のブランド推進課内 077-528-3891



75	<ul style="list-style-type: none"> <li>彦根市健康推進員として活動しています。育成研修を受けそれらを地区の市民さんに少しでも伝えられたらと他の方たちと一緒にやっています。</li> <li>外国人の方に日本語を指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>彦根市健康推進員協議会 彦根市八坂町 1900-4 くすのきセンター 0749-24-0816</li> <li>彦根市国際協会日本語教室 彦根市尾末町 1-38 市民国際交流センター 0749-22-1411</li> </ul>
76	自分の健康維持のために、柔軟体操、ウォーキングを毎日続ける意識づけになった。	
77	<ul style="list-style-type: none"> <li>仰木中学で図書室、数学でのボランティア活動</li> <li>デイサービスで週 1 回編み物を教える。時々オカリナを吹くボランティア</li> <li>生ごみを土壌にすること</li> <li>ボランティアで活動する以上のことはできていませんが、自分の持っている能力を生かせる場を見つけました。</li> </ul>	特定非営利活動法人おおつ環境フォーラム 里山保全 大津市環境学習情報室子どもエコラボ内 077-528-2020
78	<ol style="list-style-type: none"> <li>草津市公園緑地課と協同で草津ガーデニングサークル「グラッシー」の運営の副代表として、コミュニティガーデンにおける活動を通じて会員のガーデニングのスキルアップを図り、人と自然、人と人のつながりを深め、四季の彩りに満ちた和み空間となる街角ガーデンの企画、制作、管理を行うとともに、地域全体へと広がりをもたせたい。</li> <li>地域サロンの運営、立ち上げ 草津市社協のもとに地域高齢者、いきいきサロンを月 2 回活動の事務局として</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>草津市ガーデニングサークル「グラッシー」 草津市草津三丁目 13-30 草津市役所 5 階公園緑地課内 077-561-2393</li> <li>御林山 いきいきサロン 草津市野路東五丁目 5 事務局 077-565-8650 鑑継栄一</li> </ol>
79	市のごみ減量資源再利用推進会議にて活動している。	
80	大津市生涯学習センターにボランティア指導者登録をし、陶芸教室を担当。また同センターで施設ボランティアとして活動。	大津市生涯学習センター ボランティア連絡協議会 大津市本丸町 077-527-0025
81	地域の健康推進委員で活用。主に家庭の食事作り。	
82	特に地域では活動はしていません。「知る」楽しみをたくさんいただいたことに感謝しています。	
83	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会での人権まちづくりや生涯学習（広報の発行、環境美化）等の推進委員他、自治会活動への参加。</li> <li>総合型地域スポーツクラブ「湖南市ちよいスポクラブ」での活動。</li> <li>通学支援パトロール協力、小学校下校時の見守り、安全確保。</li> </ul>	湖南市ちよいスポクラブ 湖南市夏見 589(湖南市総合体育館内) 湖南市ちよいスポクラブ事務局 0748-72-0306
84	街角フォーラム始めました。偶数日は彦根駅、奇数日は南彦根駅、朝 7 時 20 分頃～7 時 50 分頃まで、毎朝 8 時 35 分～9 時 15 分頃は多賀大社駅周辺にて、街角フォーラムの勉強をさせていただいている。皆様、朝見かけましたら、街角フォーラムってどういふことなのかご指導いただけるようによろしくお願ひします。夕方、彦根駅西口周辺にて路上ライブ始めました。音楽を通しての交流活動の勉強をさせていただいています。個人での活動ですが、ラジオ体操ボランティア活動に関しては、夏休みもあり、地域の皆様と毎朝ラジオ体操をさせていただいています。	
85	立命で藤田先生の健康バンド体操の指導者の許可をいただき、地域の社協（ふれあいの館）で第 1、第 2 水曜日 10:00～11:30 高齢者のバンド体操をしています。その他に子育て支援おやつ作り、陶芸教室等です。今日健康維持できるのも、地域の方々と交流を持ってをモットーにしています。	健康バンド(湖南市) 湖南市石部東(ふれあいの館) 0748-77-6001
86	自然環境やゴミ問題等、環境に関するあらゆる分野をテーマに、子どもたちの興味・関心のありそうなこと、伝えたいことをエコリーダー中心に企画立案運営をしています。今年度は田上天神川での川遊び、夏休みには葛川での宿泊探偵を開催しました。秋以降は琵琶湖やクリーンセンターに行く予定です。	おおつ子ども環境探偵団エコリーダー 大津市環境政策課

87	地域におけるグループ活動やまちづくり協議会活動、ボランティア活動のリーダー役を担当できました。青少年育成団体や市民自主団体(環境、美化、文化、食育、子育て等)の育成・指導に役立てられた。高齢化社会における生きがい・自主的活動に大いに参考になりました。	故郷を大切にす会(ふるさと会) 草津市学童軟式野球連盟 〒525-0057 草津市桜ヶ丘二丁目 6-9 077-565-0130
88	大津市の事業の一つ「大津子ども環境探偵団」で企画運営のスタッフエコリーダーとして活動する。(自然の家での宿泊、植物観察などを実施)同様に大津市の事業「自然家族事業」のボランティアスタッフとしても活動。(里の日として稲の栽培援助、山の日自然観察補助など)	大津子ども環境探偵団 大津市役所環境政策課内に事務局 077-528-2760(環境政策課)
89	「農業体験すこやかファームおとわ」にて、野菜づくりをして6年目である。春、秋野菜30種類、共同栽培を含めると60種類以上。地産地消を実践している。	NPO 法人 京の福祉研究会 農業体験すこやかファームおとわ 京都市山科区音羽珍事町 104 075-582-0108
90	啓発・啓蒙、西武での水内作戦、エコドライブの推進、買物袋携帯の推奨、アイドリッグストップ、省エネ節電、豆電球や蛍光灯をLEDにする意義と普及を推奨等	

## 7 活動紹介(ともに活動を楽しみましょう!)

No	広報団体名称	所在地	連絡先	活動内容
1	エレキの秀やん こと田中秀治	長浜市三ツ 矢元町 13-11	長浜市三ツ矢 元町 13-11 090-7099-9396	生涯カレッジでの勉強とはことなりますが次のような活動を4年前より行っています。 55歳～58歳まで3年間地元長浜でエレキバンドを結成し演奏活動していましたが解散それ以後4年前から現在までカラオケをバック演奏にして自分はメロディ部分を生で演奏して聞かせる様な形で エレキインスト曲を中心に演奏活動をエレキの秀やんの活動名で演奏活動中です。 主にボランティアで町内会の夏祭り、文化祭、収穫祭、敬老会また道の駅や商店街のイベントでの演奏、最近ではデイサービスセンター等から依頼あればで機材持ち込みして演奏活動しています、ときには機材1日貸出PA役をもする事もあります。
2	滋賀大学「環境 学習支援士」会	滋賀県 大津市		現役を退かれ「自由な時間」と言う宝物を手に入れられた方、そこに環境保全活動のスケジュールを一つ入れてみませんか。
3	『一休会』	長浜市 小一条町 243	尾崎清(代表) 0749-62-2988	毎月の定例会は市内の「町づくり役場」を借りています。 会員自らが計画し、地域との担い手として取り組む。 ・年に一度の「ひょうたん寄席」(落語会)今年で8回目。 ・保育園や幼稚園でのクリスマス会で毎年サンタクロース役をつとめる。 ・図書館での葉刈り奉仕 その他、毎月1回定例会。2月に1回懇親会や年に2～3度の旅行を実施している。
4	ジーバーぼこぼ こ	長浜市		学校、幼稚園、保育園等での絵本の読み聞かせ ※入会は60歳以上 セミナー受講の制約あり
5	ひこね生涯カレ ッジNSC(ニュー スポーツサー クル)	彦根市 地蔵町 120- 116	窓口担当者 伊藤正敏 0749-24-1676 090-2119-4079	毎月第3土曜日午後1時より3時ごろまで県立大学(武道場)での各種ニュースポーツで、会員間の親睦と健康維持のために体を動かしています。現在会員15名。そこでのニュースポーツ経験から各団体主催の大会に「生涯カレッジNSC」チームとして出場し、愛好仲間との交流親睦を深めています。
6	彦根老人福祉 西センター、 パソコンクラブ	彦根市 稲枝		彦根市稲枝地区の方で当PCクラブに入会したい方があれば、数名増やすことができますので、センター長と相談していただければと思います。
7	おおつ環境フ ォーラム「菜の 花プロジェクト」	大津市環 境学 習情報室 明日都 大津4F		<a href="http://eco-otsu.net">http://eco-otsu.net</a> 惣一つながるブログ、検索ください。ホームページをご覧ください。

8	福のY 鉄コーティング直播栽培を普及させること	草津市 桜ヶ丘 4-6-7	川島 長治	最近の低米化やTPPに対応するためには一層の低コスト化が必要である。その有力な方法は現在の移植栽培に代えて直播栽培にすることであり、具体的には鉄コーティング直播栽培である。
9	湖南省老人クラブ連合会	湖南省中央1 丁目1	事務局 0748-72-2320	湖南省の老人クラブの活動を推進しています。最近では老人クラブへの加入者が減少してきています。地域の高齢者のつながりを強めて、心豊かな地域社会をつくるために加入促進運動を続けています。
10	NPO法人パソフレ	湖南省	ホームページがあります。	地域のシニアにパソコンを活用して生きがいにしてもらうこと
11	湖南省ボランティアセンターふれあい「いしべっこ」グループ	湖南省石部 東5丁目1-1 「ふれあいの館」内	0748-77-6001	児童・学童への支援活動を通じて地域社会・活動に参画頂けませんか？子ども大好きな方大歓迎！(活動内容)学校・幼稚園・保育園・地域自治体の要請に応じて畑作業、餅つき、遊具づくり、昔遊び等々子ども支援を通じてのボランティア活動
12	しがテニスクラブ	大津市山上 町12-30	077-523-2421	生涯スポーツとしてのテニスのクラブ活動を開始して8年になり、毎週末、日に80名の会員で活動しています。(クラブの運営、コーチに従事している)
13	NALC			NALCはホームページ等で紹介されています。生涯学習で学んだ諸活動にリンクしていけたらよいと思っています。NALCとしては「びよびよ農園」等自然に親しむ中での子育てへの貢献をめざしているようです。
14		谷口岩人 525-0036 草津市草津 町1911-2	077-562-7358	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草津市認知症サポーター養成講座の講師</li> <li>・草津小学校スクールガード</li> <li>・草津市草津学区青少年育成区民会議役員</li> <li>・草津市災害ボランティアPコーディネーター会役員</li> <li>・レイカディア大学同窓会草津栗東支部支部長</li> <li>・グリーンプロジェクトびわ湖</li> <li>・NPO法人コラ・アント・アイ理事</li> <li>・日本ボーイスカウト指導者</li> <li>・県立福祉センターボランティア</li> </ul>
15	シニアICTリーダー養成講座	野洲市小篠 原 2213-5 深尾ビル3F	077-587-2501	パソコン初心者にはシニアの目線でやさしく教えるための講師養成講座です。一般財団法人ニューメディア開発協会によるシニア情報生活アドバイザーの認定試験を受けることができます。
16	しがらきの郷歴史ボランティアの会	甲賀市信楽 町下朝宮 463	0748-84-0010 (会長:樋口晶美)	紫香楽の宮の歴史研究から始まり、信楽町の歴史文化を探索し、地元は勿論のこと、社会の人々に信楽の歴史観光、陶器の発展、朝宮茶の普及、その他文化と社会・生活とのつながりを普及する活動。会員28名
17	東近江市理科学アシスタント配置事業	東近江市	東近江市教育委員会	小学校1校あたり週1回(3時間)勤務して、理科の観察・実験の準備、後片付けを支援し、理科授業の観察・実験活動の充実に資する活動。
18	ボランティアグループ「草の根会」	草津市橋岡 町の南草津 団地集会所	080-3421-3864	南草津団地内の住民のため、サロン活動(ほのぼのサロンや一木サロン他)や、月曜日の早朝の児童公園の草刈活動、樹木の剪定作業、地域のまつり実行の中心活動および老上学区に関しても同様。小学生の見送り活動(朝だけ)などを中心に地域力の維持増進に努めています。
19	ITC 平安クラブ	京都市中京 区新島会館	次期会長(9月より) 藤原いと 523-2421	日本語クラブと英語クラブがあります。全国73クラブ、1260名。クラブでは月1回例会があり、その上にカウンセルがあり、京都、奈良、滋賀で年3回カウンセル例会があり、年1回日本リージョング大会があり、国際も年1回。
20	草津市ガーデニングサークルグラッシー	公園緑地課	561-2393	草津駅東口デッキ、南草津駅西口前、月2回ガーデンのお手入れ、コミュニティガーデンの制作。その他にオープンガーデンでの仲間づくり、情報交換。

21	淡海森林クラブ	事務局 湖南市 若竹町 4-16 福田基治方	omishinrin_club@yahoo.co.jp	滋賀県内の作業地における森林ボランティア、間伐、竹林整備等
22	公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構	540-0008 大阪府中央区 大手前 1 丁目 2-15 大手前センタービル4F	06-6920-3035	・身近な水環境の全国一斉調査 ※たくさんの方々に参加されておられますが、滋賀県全河川の調査ができるメンバーが揃うとよいなあと思います。
23	高月いきいきクラブ「転倒防止体操」のお世話	長浜市高月町高月自治会館	代表者 谷口信子さん 上記へお手紙可能	65 歳以上の方に呼びかけて、厚労省、滋賀県、長浜市地域包括支援課が推進する事業を展開していく中で地域福祉の手伝いをしています。
24	草津ハングル会	草津市立まちづくりセンター	080-5700-1184 加藤	土曜日 17:30～20:40 初級、中級、上級 各1時間ずつ韓国の先生を迎えて韓国語の勉強をしています。受講生の募集をしています。
25	彦根市環境保全指導員連絡会議	彦根市生活環境課内	0749-30-6116	・月1回市内を流れる河川・水路約150所の水質調査 ・生活排水啓発事業 各地区の出前講座 ・ホテル調査事業
26	NPO おおつ環境フォーラム	大津市浜大津4丁目1-1	大津市環境学習情報室 こどもエコ・ラボ 077-528-2020(otsu_forum@axel.ocn.jp)	地球温暖化や琵琶湖の生物多様性の課題に対応するために、市民、事業者、行政機関が力を合わせて推進する組織です。この活動は、「大津市環境保全地域行動計画(アジェンダ21おおつ)」に基づいています。」私は、環境フォーラム組織の「フォーカスグループ」に所属し、お世話役(まとめ役)を担当しています。H27年度の活動は、①環境フォーラムが毎年度開催している「おおつ市民環境塾 2015(大津市の委託事業)講座3」の『楽しい「まち歩き」』、及び②フォーカスグループ単独の地球温暖化防止事業『子どもクッキング「エコ料理」を作ろう！(大津市の委託事業)』を企画推進します。
27	横山はらっぱ倶楽部		長浜市八幡東町632 長浜市役所	横山はらっぱ倶楽部での活動 米原市との境界南北に横たわる山なみ(通称横山)を活動の場として里山の環境に触れ、学び、伝えていくことを目的に平成16年(2004)に市民活動団体として創設された。11年目を迎えて現在会員数35名(うち女性15名)男性平均年齢70歳、無理せず楽しくをモットーに活動を継続している。
28	里山ボランティア「山巡り」	湖南市中央	湖南市ボランティアセンター	健康であることを喜びとして、山歩き(近郊の)しながら林道や一般道路でゴミを拾って歩いている。(月2回の例会)年1回の遠出やグルメな山歩きや工場見学もやっているが、会員が現在50名程になり、これ以上増やさないことにしている。例会の出席率は常に50%～60%程です。
29	彦根ボランティアガイド協会	彦根市本町1-3-24 彦根市俳遊館内	0749-22-6849	彦根城を中心とした観光ガイドを行っています。毎年1～2月にかけて、市の広報でガイド養成講座を行って、メンバー募集を行っています。
30	草津でホテルを楽しむ会	草津市川原1丁目4-3	TEL/FAX 077-564-0918 E-mail sk120511@zd.ztv.ne.jp	・草津周辺のホテル生息調査、ホテル観察会の開催 ・河川・水路の自然環境や生きもの調査 ・地域の方々とホテルの棲みやすい水辺作り活動を支援 ・地域の方々との交流事業の開催 ・小学校等での環境学習支援
31	堅田子ども安全ネットワーク	大津市立堅田公民館内	077-573-9216	地域の各種団体を調整して、防犯パトロール、下校時の立ち番などを年間計画を立てて実施しています。落書きけし、防犯センサーライトの設置などで、割れ窓理論に基づいた安全に気をつかう街を実践しています。
32	公益財団法人守山市シルバー人材センター	524-0021 守山市吉見二丁目5-1	077-583-2727	市内の公園の清掃、管理作業。後期高齢者に最適の仕事です！

33	長浜市東部福祉ステーション	長浜市北郷里町	長浜市東部福祉ステーション所長	長浜市東部おたのしみ会
34	子育て推進わいわいくらぶ	長浜市木之本町田部 455	090-3992-5155	子育てに関する全般。子育てサポーターとして、保育園、認定こども園、家庭教育、地域教育支援、異世帯交流の場の提供、地域振興、社会福祉など。
35	NPO ナルクびわこ湖南	本部：大阪、滋賀に5拠点		ホームページにて確認してください。NALC ナルク検索
36	滋賀大学「環境学習支援士」会	〒520-0862 大津市平津2-5-1 滋賀大学教育学部内	077-537-7821	「未来のびわ湖人育成のための学習支援事業」小学校5年生の「うみの子」乗船前後の出前授業、1.「びわ湖の昔と今を学び未来を考える」講座 2. びわ湖の問題のある点を考え自分たちで何ができるのかを考えてまとめるワークショップ 上記1、2をセットで2時限の出前授業を提供。
37	こだわり滋賀ネットワーク		滋賀県農政水産部食のブランド推進課	環境こだわり農産物(みずかがみ、野菜など)の宣伝をしてほしい。“おいしいが、うれしが”と異なる点などもっと多くの人々に知らせてほしい。私たち消費者が生産者の人たちの手助けができるように。
38	NPO 法人ナルク	大津市	537-5668(永井さん宅)	①ボランティア預託 会員間でのボランティアで、活動した時間を預託し、個人が必要となった時(支援が必要となった時)この預託を引き出す仕組み。 ②全国約3万人の会員。滋賀県に8拠点がある。
39	公益財団法人滋賀県書道協会	520-0853 大津市螢谷1番37号 リヴラン大津石山902号	090-8888-9634	人間形成をめざす書教育 硬筆で「文字」をていねいに読みやすく正しく書く。毛筆で子どもたちがいきいきとした自己表現を「書」できるように「児童生徒は書くことによって自己を見つめ、指導者は子ども一人ひとりの良さを引き出し、伸ばすように」がねらいである。
40	こだわり滋賀ネットワーク(大津・高島支部に所属)	大津市京町4丁目1番1号 滋賀県農政水産部食のブランド推進課内	077-528-3891	・滋賀県の自然環境やびわ湖と共存した農業のあり方や食について、会員が集い共に考え行動することにより、県民の食への安心感の醸成、地産地消の推進、滋賀県農業の振興に寄与することを目的とするものです。 ・環境こだわり農業の生産者と消費者をつなぐ活動(私は消費者として参加)です。 ・今年度の大津・高島支部活動の主なもの ・こだわり農産物を食べる一料理と食事(年3回) ・落花生の草取り農業体験 ・苺の定植、落花生・さつまいもの収穫 ・給食試食会(志賀中学校) ・支部交流会、その他
41	草津市ガーデニングサークル「グラッシー」	草津市建設部公園緑地課内	077-561-2393 担当岩崎様	1. ガーデニング交流活動(講座・研修等の企画、提案、実施) 2. ガーデニングに関する情報収集、情報提供 3. コミュニティガーデンの企画、提案、実施及び管理、その他付随すること(広くメンバーを募集しております)
42	大津市生涯学習センターボランティア連絡協議会	大津市本丸町	077-527-0025	生涯学習センター施設ボランティア
43	滋賀県平和祈念館	東近江市下中野町 431番地	0749-46-0300	祈念館のボランティアグループには、手紙解読グループ、聞き取りグループの他に、紙芝居グループ、戦時食グループ、大風づくりグループなどがあります。
44	詩吟朗詠錦城会	彦根市東地区公民館(練習場所)	高木博史 0749-22-0615	詩吟を習うだけでなく、年に数回グラウンドゴルフをしたり、ゲームをしたりして楽しんでいます。練習日、毎週水・木曜日午後8～10時まで
45	総合型地域スポーツクラブ「湖南市ちよいスポクラブ」	湖南市夏見589(湖南市総合体育館内)	湖南市ちよいスポクラブ事務局 0748-72-0306	「いつでも」「どこでも」「だれでも」「いつまでも」スポーツを楽しめる地域コミュニティ。スポーツ活動、健康づくり、仲間づくりをサポート。具体的には事務局へ。

46	街角フォーラム	多賀町久徳 474-4	0749-48-1159 090-3264-2511	偶数日は彦根駅、奇数日は南彦根駅、朝7時20分頃～7時50分頃まで、毎朝8時35分～9時15分頃は多賀大社駅周辺にて、街角フォーラムの勉強をさせていただいている。
47	特定非営利活動法人おおつ環境フォーラム	大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津4F大津市環境学習情報室 こどもエコラボ内	077-528-2020	おおつ環境フォーラムは、「大津市環境保全地域行動計画」アジェンダ-21に基づき、生物多様性や地球温暖化防止の課題に対するために、市民、事業者、行政機関と力を合わせ推進する組織です。
48	健康バンド(湖南市)	湖南市石部東(ふれあいの館)	0748-77-6001	地域の社協(ふれあいの館)で第1、第2水曜日10:00～11:30高齢者のバンド体操をしています。
49	大津子ども環境探偵団	大津市主催の事業で事務局を大津市役所環境政策課におく	077-528-2760 (大津市役所環境政策課)	1990年度から続いている。対象は、小学3年生から中学3年生の大津市在住(小4、5年生が多い)60名ほど。五感を使って身近な環境に触れる活動、植物、びわ湖、川の生き物など様々な活動を実施。探偵団活動における発見・感動・考察をきっかけとして子どもたちがまちの環境に目を向け、環境リーダーに育つことを目的としている。
50	フィールドソサイエティ	京都市左京区鹿ヶ谷法然院町72-2 法然院森のセンター	075-752-4582	ホームページ <a href="http://www.jttk.zaq.ne.jp/baais400/">http://www.jttk.zaq.ne.jp/baais400/</a>
51	特定非営利活動法人 おうみ木質バイオマス利用研究会	彦根市京町一丁目6-17	0749-27-5105	木質バイオマスの利用研究、発電、利用、(木工、普及)

## 8 修了生からのメッセージ

No.	メッセージ
1	若い時でできなかったこと 今からでもできることからチャレンジしよう。
2	とにかく興味あることがあればやってみよう、先のことは考えよう。
3	地域の中で活動することによって「生きがい」を感じ、仲間どうしの絆が生まれ、信頼関係ができます。
4	人は行く所、学べる所、会う人がいることは幸せの第一歩です。
5	地域で学び、大学でより深く学び、友達作り、地域で活動しよう。
6	異年齢の方々と同じテーマについて調べ、滋賀県(地域活動)を知ることができます。
7	興味の幅が広がり、元気になれます。
8	生涯学習ということの意義…今こそ行動に移しましょう
9	外に出て、自ら外の空気を吸って、世の中の動きを感じてください。インターネット、新聞からの情報と自ら五感で感じ取ってください。
10	淡海生涯カレッジの学習内容は多様です。幅広い知識が得られると思う。
11	高齢になれば、PCは難しいと考えず、みんなとともに勉強することは、大変楽しいことであり、生きがいを感じていただける
12	自分では出来ない様な事を色々学習できてとても楽しかったです。また、学習してみたいと思いました。
13	一步前へ

14	自己の啓発の場であり、他の分野の人と知り合う場である。
15	生きがいを見つけてください
16	まずは試しに顔を出し、体験してみてください。別世界が広がります。
17	一人で学ぶよりも、グループで学ぶことで、色々な価値観とぶつかり、思考の幅を広げることができる。
18	～学ぼうか？学びたいなあと思っておられる方々へ～人生限られた時間です。願い思うだけでなく、一歩を踏み出してください。希望ある人生のために。
19	50歳代、60歳代の方々に地域での活動に参画するようしてほしい。ゆとりのあるシルバー世代を迎えるために。
20	知らなかったことを知り、そこから、新たな楽しみが増えて、生活が充実していく喜びを持てます。
21	実社会をリタイヤした中高年の人々が死ぬまでの時間待ちで生きているのではなく、再度社会に貢献できることを考えるべきだ！
22	出来るときにできるだけ多くの事を学んでください。
23	気楽に参加してみてください。
24	実践あるのみ。百回の理論よりも一度の経験
25	体(脳)、心も活性化されます。
26	社会貢献。目的を持って学ぶこと。
27	学ぶのに遅すぎることはありません。世の中未知なことばかりです。
28	今の年代だから出来る事、学びを活かす事が沢山あります。
29	あなただけの 身近な自然を見つけましょう。「見て知りそ、知りてな見そ」(柳宗悦)
30	生涯学習に励んで、地域創生に努力しましょう
31	久しぶりに、高齢になってから勉強したと思いました。健康に気をつけて頑張ってください。
32	全ては、自分の為
33	目的意識を常に確認しながら学びましょう。
34	諸講習の先生も親切で詳しくわかりやすく教えてくださるので、この機会を生かし、是非参加されてはいかがでしょう。
35	自分の教養や能力の向上等、生涯学習というこの目標がびつたりの講座を受講させていただき感謝しています。皆様にもおすすめします。
36	環境保全は永遠の課題です
37	是非第2の人生を意義あるものにするための活動を！
38	一生学び！人とのコミュニケーションが大切です。
39	発信する人にぜひなってください！
40	学ぶことはいつ始めても遅いということはないので、興味を持ったら行動してください。いくつになっても知らないことはたくさんあります。できることもたくさんあります。脳の活性化にもなるし、自分のペースで楽しみにしてください。
41	地域のことを知るために、さまざまな活動に参加してくださいね。
42	再発見の場です。
43	まずは始めてみよう、参加してみよう
44	スタッフの皆様も受講される方も前向きで、フレンドリーな方が多く、学習内容以外にもたくさん得るものがあり、感謝しています。おすすめします。
45	生活に結びつく方法を自分なりに考える

46	カレッジで人ともつながり、学んだことを、皆で話し合えるようになると、より深く考え、理解することができますと思います。
47	何歳(いくつ)になっても 学びたいと思った時が 学び時
48	健康なうちは、身体も頭も使いましょ！
49	自分自身が住んでいる町のことを知ることから始まると思うので、そのはじめての一步がこの生涯カレッジがよい学びの場と思う。
50	実践して社会に役立つ高齢者でありたい。社会参加、地域ボランティア、子どもの安全等「自分でできる社会参加を 前向きに取り組んでほしい」
51	とにかくやってみよう！
52	楽しんで学ぶことが一番ですね。
53	郷土を愛する人に
54	「淡海生涯カレッジ」は、難しい環境のことを勉強する講座と見られています。とにかく、受講(体験)して「どんなに楽しく環境のことが学べるか」を知ってほしい。
55	継続は力なり 無理せず楽しく！！
56	今、地球規模で環境が問題となっている。滋賀県に於いては琵琶湖があり、その水は京阪神の飲料水となっております。おのずと水質について関心を持たざるを得ない。
57	興味を持ってチャレンジ、まず第一歩より
58	社会・地域に一步踏み出してください。
59	つながろう！人と自然、暮らしと水辺、人と人 伝えよう！ふるさとの楽しい思い出
60	いくつになっても学ぶことは楽しく。理解力は年齢とともに深くなるのでがんばってください。
61	充実した人生は生涯学習から生まれます。学校での授業だけが学習ではありません。物事を知ろうとする事、行動を起こそうとする事全てが学習です。
62	生涯学習で学ばれることはきっかけです。関心のあることやできたことをさらに深く、広く追及することは楽しいです。
63	淡海生涯カレッジは、普段行くことができないところ、人に会うことができ、また、地域の伝統料理を実践学習した。勉強になります。
64	心身ともに健全であること、これを目標としてください。
65	学びは生きるパワーになります
66	年をとっても学ぶことは頭の体操にも楽しいですよ。習った事もすぐ忘れますが、やらないよりやった方がいいでしょう。
67	家庭の事情で中学を中退した私にとっては有意義な学習内容でした。定年退職者の方はぜひ参加なさることを勧めます。
68	大切な時間を今後の滋賀県のためにご努力をお願いいたします。
69	何歳から学んでも遅くはありません。楽しく勉強できます。ぜひ参加してください。
70	定年後はもっともっと地域社会へ自ら積極的に参加していけば学ぶことが多い。レイカディア大学へ奨めている。
71	生涯学習する意欲を失わないこと。高齢化するに従い、ますます新しいことに興味を持つことが若さをなくさないことだと思う。
72	これからの社会は世界的に生涯環境学習が必修。
73	人間死ぬまで生涯現役で勉強をしてほしい。したいと思っています。
74	知らないことを知ることに感動を！
75	多湖輝さんが言う「キョウヨウ」と「キョウイク」はあなたの健康寿命をのばす！（朝日新聞・天声人語から）
76	学んだことがすぐに自分や世の中の役に立つことはなかなかないですが、それまでに接した講師、先生、接した人々を通してのつながりで、何かをしようとする、いろいろと助けていただいたことがたくさんありました。
77	勉強することに限界はなく、何時からでも、何歳になっても学び続けられると思う



78	人間何才(いくつ)になっても学びです。一人でも多くの先人たちと思いを共にできるなんて、なんとすばらしいことでしょう。
79	学ぶ力は生きる力 健康長寿をめざし頑張ろう
80	カレッジで学ぶことが、その時直ちに日常生活や活動に結びつかなくても、修了後の日常生活や活動に役立っていることが多くあります。受講して本当によかったと思います。
81	年齢に関係なく、積極的に参加する意義はあります。
82	様々な人に出会い、自分とは違うことや視野が広がります。違う人生を見つげられることもあります。
83	65歳の定年退職を待って何かしようと思っても、あっという間に70歳になってしまふ。50歳から自分の第2の進むべき道を早めに見つけること。
84	「マザーレイク」の精神で地元の環境をきれいにしましょう。
85	自分に知的好奇心があったことが発見できます。楽しいです。
86	県の取組、琵琶湖の状況等について学ぶことができる。
87	年齢に負けずに、学び続けたい
88	いつまでも好奇心を持つこと
89	このような活動は地道にコツコツと一人でなく仲間たちの協力、アドバイスのもとで学び、活動をしていってほしいものです。
90	興味を感じることに飛び込んでいけばいいと思います。
91	色々と幅広く学ぶことができました。
92	継続は力なり。頑張ってください。ファイト。
93	何事にも、まず、チャレンジ精神なくては物事は前に進まない。臆する事無かれ！
94	いろいろの活動に参加すればヒントは得られる。その先は本人の意欲と活動があるのみ。
95	学んでいろいろな事を知るということはとても楽しいことなので、まずは行動する。一つのことをきっかけに広い世界がひらける。そういう気分を味わってください。
96	出会う人、皆「わが師」 活動を通して多くの人(専門の教授や学長まで)交流できました。
97	学びを通して自信を持つ！
98	若い人達へ～シニアと一緒に学びませんか～
99	関心のある課題に一步踏み出しチャレンジしてみてください。
100	自分が興味を持っていなかった範疇も学ぶ喜びもありますし、新たな友達もできてとても楽しいです。
101	多くの方が生涯教育(学習)の重要で大切であることを理解して積極的に学んでほしい。
102	何事にも好奇心を持ち、学び続けていくためにまずは一步
103	何でもよいので学ぶということは大変大事。自己実現のためにも是非1歩前に。そうすれば生きる実感がわくと思います。
104	善は急げ！
105	仲間づくりは楽しく、大切だと思います。
106	学んだことが具体的な活動につながらなくても、学習することは人間にとってとても大事なことだと思います。
107	勇気を少し出して、初めの第一歩を踏み出してください。自分のためにも世の人のためにも。
108	始めの一步が大事です。出かければ仲間ができます。楽しみが増えます。
109	自己満足にならず、本当に好きな部門のみを選んで楽しく。
110	とにかくまず参画しよう

資料1 淡海生涯カレッジ・20年の記録

資料2 淡海生涯カレッジの受講者数と修了状況

については、滋賀県学習情報提供システム「におねっと」(<http://www.nionet.jp/>)内、「淡海生涯カレッジ」のページで閲覧していただけます。

直接アクセスされる場合のURLは

<http://www.nionet.jp/11division/college/index.html> です。



におねっと

検索

## 淡海生涯カレッジ 20年の歩み

発行 : 2016年2月

---

滋賀県教育委員会事務局生涯学習課

〒520-8577 大津市京町四丁目1番1号

TEL(077)528-4652/FAX(077)528-4962

ホームページ <http://www.nionet.jp>